

N.S.R.機關雜誌

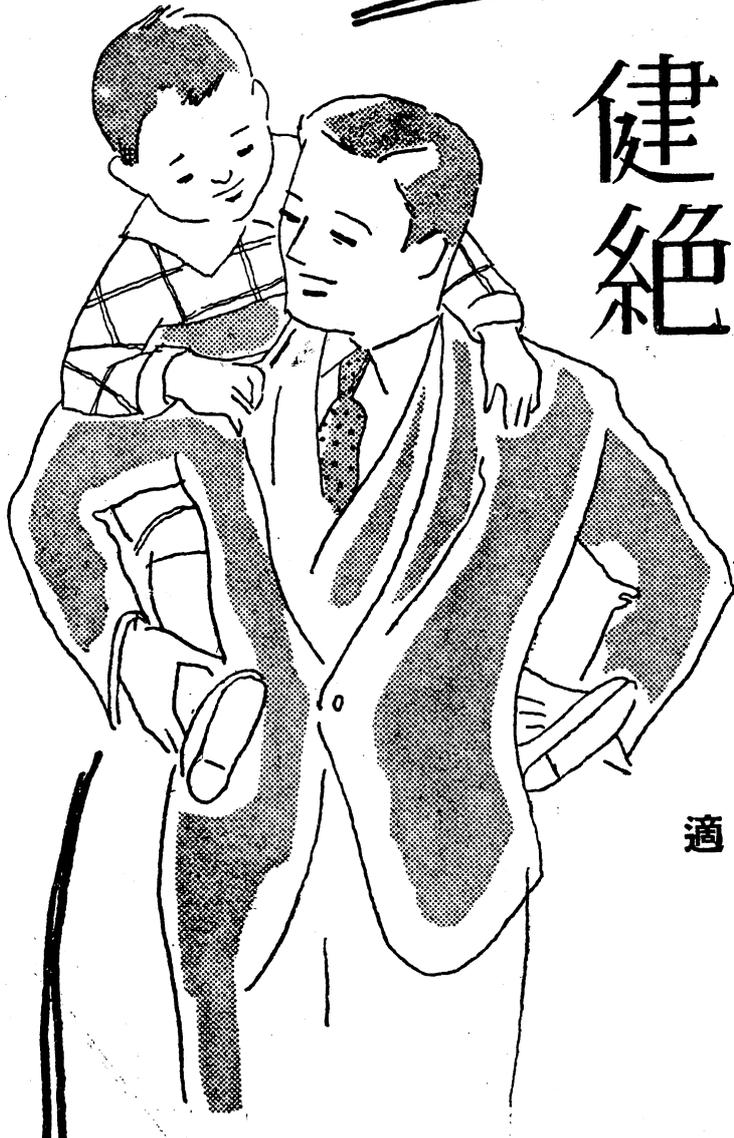
水泳



昭和十三年四月

N055

日本水上競技聯盟



健康保持に 絶対必要 副 養 素 オリザニン

ビタミンBの世界的始祖
鈴木梅太郎博士發見
帝國學士院受賞

適應範圍

- 元氣の銷沈に.....
- 活動力の減退に.....
- 疲勞及び倦怠感到.....
- 食慾不振に.....
- 胃部膨滿感到.....
- 便秘に.....
- 脚氣の治療と豫防に...
- 兒童の成長障礙に.....
- 妊娠産褥授乳時に.....
- 發熱性疾患時に.....
- 細菌性疾患時に.....
- 中毒性疾患時に.....

(内服用末、錠、液、エキス)
注射用各種製品あり

詳細説明書にあり
御申越次第送呈

三
SANKYO
共

製造發賣元 東京町 三共株式會社

日本水上競技聯盟

機 關 雜 誌

水 泳

昭 和 十 三 年

第 五 十 五 號

目 次

男子競泳日本最高記録	(2)
女子競泳日本最高記録	(3)
準備第二年度のシーズンを迎へる	齋 藤 巍 洋 (4)
昭和十三年日本選手権大會大綱	(5)
飛 込 雜 感	大 澤 政 代 (6)
私のスポーツ感	中 川 千 枝 子 (7)
十年間の選手生活を顧みて	壹 井 宇 乃 子 (8)
第十一回オリンピックク伯林大會報告書	
第三編 水 球	
水 球 日 記	(9)
戦の跡を顧みて	松 本 隆 重 (21)
河 童 の 話	十 字 路 生 (26)
キツプス監督をエールに訪ねる記	日 山 源 三 郎 (27)
臨時代議員會議事録	(29)
聯盟議事録	(30)
聯盟日記	(32)

男子競泳日本最高記録

昭和十三年一月一日現在

記録()アルハ短水路

自由形	距離	時間	氏名	所屬	場所	水路(米)	昭和年月日
自由形	50米	25.8	高橋成夫	早大	神宮	50	9-9-16
	100米	57.2	遊佐正憲	日本	神宮	50	10-9-13
	200米	2:11.2	遊佐正憲	日本	神宮	50	10-8-19
	300米	3:32.0	根上博	立大	神宮	50	10-8-7
		(3:31.8)	根上博	立大	東大	25	11-4-11
	400米	4:45.2	根上博	{日本立大	神宮	50	10-8-10
		(4:45.0)	根上博	立大	東大	25	11-4-11
	500米	6:09.8	牧野正藏	早大	神宮	50	10-9-15
		(6:07.2)	石原田愿	明大	神宮	25	8-9-30
	800米	9:55.8	牧野正藏	早大	神宮	50	10-9-15
	1000米	12:41.8	根上博	聖ポール	神宮	50	9-8-12
	1500米	19:08.0	北村久壽雄	高知商	神宮	50	8-8-13
平泳	50米	(34.6)	鶴田義行	明大	明大	25	5-4-19
	100米	1:13.0	小池禮三	慶大	神宮	50	10-8-4
		(1:12.2)	小池禮三	慶大	東大	25	11-4-11
	200米	2:40.4	葉室鐵夫	日大	神宮	50	12-8-16
	400米	6:24.4	鶴田義行	日本	玉川	50	3-10-13
		(5:53.0)	小池禮三	慶大	東大	25	11-4-11
	500米	8:30.8	鶴田義行	日本	大阪	50	大正15-9-12
		(7:23.8)	小池禮三	慶大	東大	25	11-4-11
背泳	50米	30.8	清川正二	東京商大	神宮	50	8-9-15
	100米	1:07.2	清川正二	日本	伯林	50	11-8-12
	200米	2:31.0	吉田喜一	早大	大濠	50	12-8-3
	400米	(5:30.4)	清川正二	東京商大	神宮	25	8-9-30
潜水	50米	34.0	柳瀬勝得	横鎮	神宮	50	6-10-20
リレー	200米	1:46.0	早大 {竹村公良 阪上安太郎	志村高橋 義久成夫	神宮	50	10-9-15
	400米	3:55.6	日本 {新井茂雄 平野亮	志村遊佐 義久正憲	神宮	50	10-8-18
	800米	8:51.5	日本 {遊佐正憲 田口正治	杉浦新井 重雄茂雄	伯林	50	11-8-11
メドレー・リレー	300米	3:20.8	日本 {吉田喜一 遊佐正憲	小池禮三	神宮	50	10-8-17

女子競泳日本最高記録

昭和十三年一月一日現在

記録()アルハ短水路

距離	時間	氏名	所屬	場所	水路(米)	昭和年月日
自由形						
50米	31.6	松澤 初穂	大阪女水	大阪	50	8— 8—29
100米	1:11.0	小島 カズエ	日本	伯林	50	11— 8— 8
200米	2:45.0	小島 カズエ	梶山	振甫	50	8— 7—30
	(2:42.8)	小島 カズエ	梶山	七本松	25	8— 8—27
300米	4:22.6	守岡 ハツ子	關西	神宮	50	10— 8—19
	(4:19.6)	小島 カズエ	梶山	神宮	25	8— 9—30
400米	5:43.1	小島 カズエ	日本	伯林	50	11— 8—15
500米	7:44.8	守岡 ハツ子	茨木	大阪	50	10— 7—28
	(7:35.6)	守岡 ハツ子	茨木	神宮	25	8—10— 1
800米	12:31.8	守岡 ハツ子	茨木	大阪	50	10— 7—28
1000米	15:57.0	守岡 ハツ子	茨木	大阪	50	8— 7—30
1500米	24:08.6	守岡 ハツ子	茨木	大阪	50	8— 7—30
平泳						
50米	40.6	前畑 ヒデ子	梶山	振甫	50	10— 9— 1
100米	1:25.7	前畑 ヒデ子	梶山	振甫	50	10— 7—27
200米	3:01.9	前畑 ヒデ子	日本	伯林	50	11— 8— 8
	(3:00.4)	前畑 ヒデ子	梶山	神宮	25	8— 9—30
400米	6:37.6	前畑 ヒデ子	梶山	清洲	50	8— 8—20
	(6:24.8)	前畑 ヒデ子	梶山	神宮	25	8—10— 1
500米	(8:03.8)	前畑 ヒデ子	梶山	神宮	25	8—10— 1
背泳						
50米	39.4	横田 みさを	京都府	大阪	50	8— 8—29
100米	1:25.1	横田 みさを	日本	ロサンゼルス	50	7— 8— 9
200米	3:10.4	横田 みさを	京武	寶塚	50	8— 9—10
	(3:09.2)	小田 アイ	筑紫女	寶塚	50	11— 9—20
リレー						
200米	2:16.8	名古屋 {木村 繁子 鈴木美代子}	小島 カズエ 大倉 篤子	振甫	50	11—10—11
	2:16.8	名古屋 {鈴木美代子 木村 繁子}	立松 京子 梅村 米江	振甫	50	12— 8— 1
400米	4:58.1	日本 {小島 カズエ 古田つね子}	守岡 ハツ子 竹村 令	伯林	50	12— 8—12
メドレー・リレー						
300米	4:13.4	中部 {北島 静子 小島 カズエ}	前畑 ヒデ子	神宮	50	10— 8—19

準備第二年度シーズンを迎へる

齋 藤 巍 洋

◇昨年度を回顧して◇

昨年度の世界に於ける男子競泳界の動きは餘り芳しくなかつた。米國に於いては百米背泳は依然一分六秒八でキープアの獨壇場、また中長距離には四百米四分四六秒、千五百米一分九分十八秒このフラナガンが世界のリーダーシップを取つてゐるが、目新しい選手の擡頭もなく、また問題のバタフライ泳法についてもヒギンスが例へ旅の疲れのためとはいへわが二流選手にも惨敗、見るかげもなかつた。

歐洲方面においても獨逸のジータス、ハイナ等が二百米平泳二分四二、三秒臺の確實な實力を見せ、また短距離陣ではチツク(洪)フィツシャー(獨逸)等が百米に五八、九秒臺の所に居るが新人としてはハイナ位のもので、餘り興味ある躍進がなかつた様である。

また日本に於ても二百米平泳に葉室鐵夫君が二分四〇秒四といふ長水路に於ける前人未踏の好記録を樹立し、百米、二百米短距離陣でも新井茂雄君が天下無敵振りを發揮した。百米五七秒八、二百米二分十二秒二等はデツド・スタート法に改正された現在としては實に優秀なものであつたが、續く田口正治君が辛うじて一分を割る貧弱なものでウォルフ一米五八秒二等に比して心細いタイムで、短距離陣のトリオ遊佐正憲君などは昨年度世界のランキング第十二位に當り、その他一般のレベルから見て満足すべきものではなかつた。

百米背泳に於ては吉田喜一、兒島泰彦君などの健闘もキープアに接戦すべき所までは到らず、四百米では老将牧野正藏君がよく常勝メダカを日本に迎へてタツチの差でこれに凱歌を奏することが出来たが四分五〇秒を割るものなく、また長距離にでも折角日本選手權に千五百も一分九分三七秒八の好記録で活躍をほしきにし、秋のインターカレッジエイト大會に期待が賭けられたが、振はなかつた。

また平泳界では葉室鐵夫君が斷然頭角を現はしペースにも確信を得た様であるが、續く小池君が二分四四秒四に止まり、野田務君も二分四五秒二にまで漕ぎつけたといふものゝ、スプリントに未だ缺陷があり大浦誠一郎君が伊藤三郎君をリードしたが、二分四八秒六に止まつてゐる。

一方中學生中にも背泳の鷲谷光門君(宮城工)二百米の宮本茂君(多渡津中)杉田芳郎君(中京商)千五百

米の天野富勝君(八幡製鐵)岩田務君(岐阜商)などが中等界或は新人として期待される選手ではあつたが、昨年度の各選手の泳ぎ振りは何んとなくその場限りのペースで泳ぎ、堅實なペースで泳いでゐた選手が殆んど見られなかつた様だ。

緊張したオリンピック大會の翌年といへば毎回こんな氣の抜けた様な一年を繰り返して來たものだつた。ロサンゼルス大會の翌年も北村久壽雄君が千五百米一分九分八秒〇の大記録を樹立翌年からは影をひそめた。その他短距離の遊佐正憲君が百米五八秒〇、二百米二分一三秒〇に到達、牧野正藏君が四百米四分四六秒四、八百米一分八秒六共に世界記録を作りベルリン大會まで泳ぎ續ける様な偉大な收穫もあつたが、一般的にはスラム時代であつた。

わが昨年度も冬季合同練習などを行つて見たが効なく、依然既往をくりかへすのみであつた。そして我々に與へられたものは

- ◇氣分の乗つて來ない練習は練習法の如何にかゝらず、成功をもたらなさい
- ◇日本の強味はオリンピック優勝を目指して必死になつて協力してやることにあるんだ
- ◇日本軍の體力では始終緊張して強味が全員に世界のリーダー・シップを取つて行けと云ふことは難しい

と云ふことが痛感させられた。

しかし東京大會に練習期間として二シーズンを餘すのみとなつた。米國に於ては既にキツパスオヤヂが三度目の水上軍ヘッドコーチとなり準備をすゝめて居るから、わが國に於ても昨年同様であつてはならぬと希つてゐる。幸ひ本年度の東都各校選手の張り切り方は大したものだ。

◇冬期の準備運動の必要性◇

冬季は體力の養成、身體の匡成等の目的のために各種の準備運動としてのスポーツが考へられてゐる。次に各校で採用してゐるスポーツについて紹介して見よう。

早大 ラグビー競技に熱中、その技倆は校内大會で決勝を争ふだけの實力を持つてゐる。先づチームの統制、闘志の養成すべき絶好のスポーツだ。しかし傷を受ける危険性があるが本年はいづれも健在、二月五日には慶應水球チームと對戦十七對零で大勝してゐる、唯危険性のあるのが恐ろしい。

日大 遊佐君を學窓から送り出すことになつた日大では葉室君を大將として既に昨秋から神田のYMCAに通ひ詰め、午後の體育館の主となつて陸上に於ける運動にプールに愉快地遊び廻りながら體力を養つてゐる。キビキビした泳ぎの動作も、こうした體育館での體操遊びによつて基礎づけられる。

立教 新井、田口君などを中心としていよいよスタッフを固め、一月末からこれもYMCAに現はれ先づチームの統制を計り、本シーズンの飛躍を期してゐる。

慶應 寺田登、高橋弘、兒島君などの豫科生を主體として、これもYMCAに顔を揃へて却々の元氣だ、寺田、高橋君などの「デブ」さん型も體操によつて身體の匡成を期してゐる。昨今のYMCAもこうした希望に満ちた選手達で賑はつてゐる。

明治 石原田愿、伊藤三郎兩選手の後を野田務君が引き受け、石原田君が選手時代唯泳いで泳ぎ抜いてゐた傳統のためか、矢張り野田、山口正保君などが相替らず泳ぎ續けて面目を一新せんと力んでゐる。

冬季どんなスポーツを撰べばよいかといふことは種々研究の餘地が残されてゐるが、こうして各校選手が本腰を入れて、違つた種目に精進を拂つてゐるから本シーズンの活躍によつて冬季練習について何等か得る處ろがあるんじゃないかと期待してゐる。

ベルリン大會前根上博君が突如第二線から體操によつて先づフォームを完成、中長距離界に革命的ペースを作り上げ、ベルリン大會の長距離制覇を基礎づけたが實力を持つ東都各選手がシーズン初めからかく張り方をしてゐるから、必ず確かりしたペース

が生れ水上日本として明るい時代が出現するものと今から楽しみにしてゐる。

レベルの向上、充實は各選手が練習の自覺を持つて精進さへすれば少し位の練習法の差違は十二分にカバー出来、躍進が期待されるからである。

女子競泳界の昨年度は和蘭、丁抹、獨逸等は依然水上王國を目指して相競つて米國女子競泳界なども影をひそめた形だつた。また南米のキヤムベル(アルゼンチン)百米一分六秒七で百米のランキング第一位、またコーチンニヨ(ブラジル)が四百米五分三〇秒でヴコーゲル(丁抹)の五分一二秒四に續いて第二位にランクされてゐるがチームとしては歐洲の三ヶ國には及ばない。

一方わが女子競泳界は前畑嬢の引退後は世界の第一線への希望も影が薄くなつた様だが、昨年度あたりの女子競泳界の勃興は素晴らしいもので、記録的には見るべき何物をも見無かつたが、昨今の意氣で進めば本シーズンあたりには第二の「前畑」が出現するのではなからうか、希望を持つて大いにやつて貰ひ度い。

水上聯盟としても本年度の米國遠征の計畫は支那事變のために中止の已むなきに至り、第一線選手に一寸と失望させたが、東京大會の中心勢力となるべき第二線選手の爲、甲子園に於て三月下旬より二週間中等選抜選手、女子Bクラス選手の合宿練習を、又關東女子選手は第六高女に、關東大學選手は東大プールにそれぞれ合同練習を行ふ等本格的に選手強化計畫が進められつゝあるから、本シーズンの活躍こそ期待して待つべきものがあるであらう。

昭和十三年日本選手権水上競技大會

大綱

兼第十二回オリンピック東京大會第一次豫選會

期日 八月十九、二十、二十一日の三日間
場所 甲子園プール
主催 日本水上競技聯盟
主管 大阪水泳協會

A 競技種目

- イ 競泳(夜間)
 - 男子自由形 100米 200米 400米 1000米
 - 背泳 50米 100米
 - 平泳 100米 200米
 - 女子自由形 100米 200米 400米
 - 背泳 50米 100米
 - 平泳 100米 200米
- ロ 飛込競技(晝光時)
 - 男女飛板飛込並高飛込競技
- ハ 水球競技(晝光時)

B 出場資格

- 競泳
 - イ 前年度選手権保持者
 - ロ 各地方豫選會入選者 A 團體六名迄、B 團體三名迄
 - ハ 東部、西部の中等學校大會決勝六等迄の入選者
- 飛込
 - イ 前年度選手権保持者
 - ロ 各地方豫選會入選者 A 團體六名迄 B 團體三名迄
- 水球
 - イ 前年度選手権保持チーム
 - ロ 各地方豫選會入選チーム A 團體二チーム迄 B 團體一チーム迄
 - ハ 關東學生水球リーグ戦、關西學生水球リーグ戦の二位迄のチーム

飛込雑談



大澤政代

国民の體育向上が叫ばれて居る折も折、私共飛込グループは第六プールを借用して冬季練習を開始した。プール使用の関係上学校の生徒さん方を中心に十人餘りのメンバーが元氣潑刺と水に親しんで居る。

「好きこそもの上手なれ」とか「精神一統何事か成らざらん」の古諺をむねとして練習の回を増すごとに進歩上達して行くのは人数の少い飛込界の爲に大いに喜ばしい限りだ。

何時もの事ながら、新しく飛込をやり出した人達にこんな質問をしてみた。

「初めてやるのに恐はくありませんか？」
 「いえちつとも！」
 「上手な人を見てどう思ひますか？」
 「私にだつて出来る様な氣がします。今すくにはむずかしいでせうけれど……」
 「なんでもやれさうですか？到底出来ないだらうと考へますか？」
 「教へて頂けばやつて出来ない事はないと思ひます。一生懸命やりさへすれば出来る様になる自信があります。」

聞いて私は驚いた。それは決してトーチカの如き心臓の強さに呆れたのではない。私の初めて飛込をやり出した時とは雲泥の差の“答へ”であつたから……。たとへば私は十米なぞ如何に間違つても絶體に飛べないと思ひ込んで居たものだ。それがどうだらう。一年経つか経たぬ中に飛ばされて(?)了つたのだから他愛ないものだ。時代の相違か近頃の方は考へ方が至つて積極的だ。自信を持つてハツキリとお答へなさる。偉い進歩だ。それだけでも私よりはウハテだ、満足せねばなるまい。今一步の努力！今夏までには相當飛べる人も出て來る事と楽しみにして居る。

女學校大會を目指して地方の各學校は一人でも良いから選手を仕立てて送つて頂き度いと切望して止まない。設備の無い地方は止むを得ないとしても中京、關西の地方が競泳のみ進歩をみて飛込が發達しないと云ふ手はない筈。大いに奮發して貰ひ度いと願ふのはあへて私一人ではなからう。

スポーツに対する國民の認識不足と社會の狀勢がスポーツの普及を妨害してゐる事が原因ではあるまいか。それ故に國民體力向上が問題となつて來たのは當然の成り行きだ。

オリンピック大會を二年後に控へて一寸心細い氣がするのは飛込ばかりではなさそうだ。

プー ル 公 認

公 番	認 號	名 稱	長 サ	場 所	公認日附
70		濱一中プール	(50米)	濱松市廣澤町1	昭和12 8 27
71		濱商プール	(50米)	濱松市名残町499	" 12 12 21
72		川崎東山學校プール	(50米)	神戸市兵庫區東山町3ノ2	" 2 12 21
73		静岡縣立豆陽中學校プール	(25米)	静岡縣賀茂郡稻生澤村	" 12 12 21
74		釜山府公設プール	(50米)	朝鮮釜山府大新町	" 12 12 21
9 (再公認)		大濱公園競泳池	(50米)	静岡市外大濱	" 12 12 21
18 (再公認)		寶塚新温泉プール	(50米)	兵庫縣川邊郡小濱村	" 12 12 21

私のスポーツ観

中 川 千 枝 子

選手生活を退いて永いことになります。第三者的立場に立つて女子競泳界を打ち守り且又その他のスポーツ界をも併せて打ち眺めますと又自ら新たな氣持が湧いて参ります。或時は新進の指導に興味を覚えたり、その不振さに期待を失つたりします。又或時は各選手の好調さに雀躍しては益々指導に熱中したりします。種々な尊い経験も得れば貧しいながらも一箇の意見や感想の幾つかをも有します。

しかしそれ等を筆に纏められますと、とても粗雑な頭腦しか持ち合せぬ私などにはその一つでさへ満足に盡すことも出来ません。

唯そのことを漸く此處に表しました。それも極くつまらないことなので申譯なく存じてゐます。

× × ×

男子に比して女子の競泳が餘りに振はないことは水泳王國日本に相應しからぬことの様です。勿論女子競泳も近年は著しく全国的に普及し來たつてゐることは否めませんがその技術的乃至は記録的な方面から觀察いたしますと男子の様な飛躍的進歩は覗はれません。従つて前畑嬢無き後の女子競泳界は依然として又舊態に復した世界の三四流でしかない有様です。少くとも競泳技術では世界の最高峯を歩んでゐる日本なのですから、女子に於てもそれが完全に當嵌められそうなものだと思つてゐます。しかし事實は一向にそんな氣色もありませんのは次の様な點が主な原因なのではないでせうか。

1. 各種の家庭的な原因に依つて女子選手としての生命が短いこと（所謂“水泳”は嫁入道具にはならぬと申す風な思想が未だに多い様です）

2. 體力が外國選手に比べて餘りにも劣ること“身體が小さくても牧野選手を見よ”と申す具合には参りません。“筋肉隆々”とは女子に望むことが至難です。

3. 選手養成の好機會があらゆる方面に於いて男子のそれの如く恵まれません。女子インターカレッジでも開催出来て各女子大學に覇を競はしめる様になつたらどんなであらうと夢みてゐます。

その他數へ挙げれば仲々でせう。

こう考へれば女子競泳の不振は強ち、選手のみを責を嫁することも出来ない様です。此の状態の下に於

てこれを世界のレベルに迄引上ると云ふことは、又容易な業でもないと思はれます。唯々之を救けるものがあるとするれば、それは前にも申し上げました女子競泳の全国的な普及であるとしか思へません。そして若い人々の力ある精進を望んで居りますると同時に、又これを期待しては心強く感じてゐる一人でございます。

× × ×

Minister K. Hirota を知らなくても Champion N. Terada や Champion T. Hamuro を知らない外國人は誠に少いと云はれます。それ程外國人はスポーツが好きなのでせう。さうすると今更乍らスポーツ外交と云ふことは、日本を世界に紹介する爲絶大なる効果を有するものだと思はれて参ります。伯林大會に於ける村社選手の奮闘振りや、孫選手の美事な優勝振りはどんなにか世界の人々の心を強く日本に引きつけたこととせう。その點から云へば、これ等の諸選手は一個の良き外交官であり、その功勞に對しては國家から勳章の一つ位は下げられても良いやうにさへ思はれてなりません。

× × ×

今日のスポーツマンのみではありませんがどの種の競技に於てもその競技者は學生が中心を爲して居ります。そしてスポーツの普及發達と共にどのスポーツでもが一樣に純粹の意味のスポーツとしてゝない勝利を目的とのみ仕勝な“競技”に墜して行つたことは事實と思はれます。世目を引く様な名選手の裏面には競技者の異常な精進と努力とが潜んで居りますが又その一枚奥には、その爲に犠牲となつた、學生の使命たる研學の存在することも否まれません。名選手があればある程その程度は深刻かも知れないと思はれます。

そこに所謂“専門競技者”又は“専門家”と呼ばれるアマチュアスポーツマンを侮辱した名稱が世の人々から起つて参ります。スポーツが普及すればする程選手の引拔が盛んになり、その引拔に或る種の條件が附せられるなど、信ぜられてゐる、世間から申せばこんなデマ的の非難も飛び出ませう。

何時もアマチュアスポーツ界の爲に遺憾に思つて居ります。

十年間の選手生活を顧みて

壺 井 宇 乃 子

小學兒童水泳大會出場當時から先年伯林オリムピックへ出場させて戴きましたのをとり混ぜまして私の選手生活は十年になります。今春、體專を卒業致します豫定でございますので體操教員となりましてからはアマチャーの資格が無くなりますので選手を止める事に致しました。今その選手生活を顧みまして感じました事味ひました事を記させて戴きます。

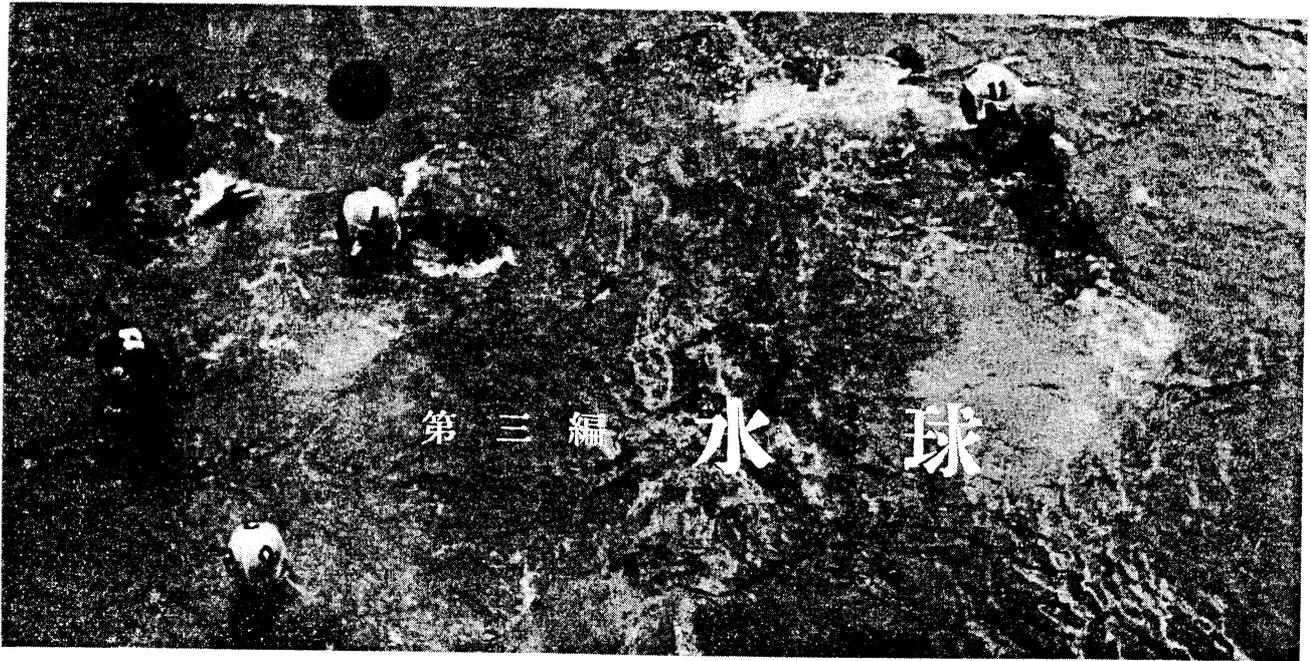
タイムの悪い一着よりベストをつくした時の二着の方がより嬉しいものですし自分の後に一人でも人のゐた時にまだビリでなくつてよかつたと思つた事もございました。水泳が三度の御飯よりも好きでしたので父がどんなに反對してもこつそり練習に出かけるのでございました。京都府立第一女學校當時共に練習してゐた人達は皆水泳に對して理解のある御家庭の方許りでしたので、練習を終へて歸りますのはいつも夕方電燈が點つてからでございました。夕食後はくたくたに疲れて何もせず眠つて失ひます。私の歸りが遅ければ遅い程父は不機嫌で、家に入つた時の感じで又父が怒つてゐると云ふ事がよく分かりました。母も父が反對なのだから練習を早く切り上げて明い中に歸つて來る様申します。自分も今日こそは早く歸らうと思つて出かけますが皆と一緒に練習を自分だけ早く切り上げる事がどうしても出来ませんでした。選手をなさつた方はこの事がお分りになると存じます。女學校卒業後この體專の寄宿舎で三年を過しました今親の有難味を知る事が出来ました。舊式の親から見ますれば女の子が水着一枚でひねもす泳いで暮し夕方暗くなつてからくたくたに疲れて歸宅し、夕食後は何も出来ず先き立つものは居眠り許りで學校の成績も悪い上に女らしい閑雅さが一つもないのでは賛成出来なかつたのも無理ない事でもございました。尙小學校時代校醫様からこの子は心臓が弱いから過激な運動を避る様との御注意があり又試合出場の翌日熱を出して寝る事もございましたのでそれも反對の原因となつたのでせう。が今の私は風邪らしい風邪も引かず従つて萬病にも縁が遠うございます。學校を最優等で卒業してもその翌年亡くなつて失つたのでは何にもなりません。命あつての物種でございます。又水泳のお蔭でチビだつた私が今では五尺三寸の高さになり、物事に對する耐久力も強くなりました。練習中は父に叱られる事も教場で先生に注意される事もみんな忘れたど一

心に泳ぐ事が出来ました。定められた長さより百か二百米餘分に泳いで失つてゐる事も度々ございました。指導して下さる先生の方では充分な練習をさせるためには、場所や人數の都合でどうしても歸りの遅くなるのは致方のない事なのでございませう。一度女學校の先生が父に了解させる爲めにわざわざ家までお來し下さつた事もございましたがやはり歸りの遅い時は不機嫌でした。この場合私が學校の成績も人並に出来もう少し女らしい處があり練習も明い中に切りあげて來たと致しましたら萬事よろしかつたのでございませう。私の場合は家庭が反對で選手とコーチャーとの間はよろしかつたのでございますが、コーチャーも家庭も熱心であるのに肝心選手が練習を好まない場合又家庭、選手が一生懸命であるが學校(其他)で一生懸命になつてくれない場合もある事と存じます。練習を嫌がる人の氣持が分らなかつた時もございましたが今はよく分ります。水泳も自ら進んで楽しむ時その時が一番楽しいのでありまして、難しい事も苦痛を苦痛と感じませぬし總てを忘れて一心にそれにひたる事が出来ますが一たん之が強ひられるものとなりますとそこに今迄感じなかつた苦痛をしみじみ感じます。そしてそれも過去となつたときその苦しみも楽しい思ひ出となる様な氣が致します。

コーチする方は家庭と連絡をとつて居られ、選手も進んで練習し家庭も水泳及選手に對する理解をもつて下さるとしましたならこの問題は緩和され、すばらしい選手が續出するのではないかと存じます。

悪童のきく同盟ニュース

「お嬢さんですか？」と問はれた石本先生傍の美しい振袖姿の夫人をかへりみて「ワツハツハ」所はオペラの本場イタリはローマ某劇場での話(ローマ發同盟)



第三編 水球

第十一回オリンピック伯林大會

日本代表水球チーム

コーチ	松本隆重			
主將	阪上安太郎			
選手	高橋善次郎	勝久重隆	片岡寅次郎	高木茂雄
	田野耕清	和田幸一	若山瀧美	前田倍三
	古莊次平	高橋三郎		

水球日記

日記は全員十二人が交替に記することにした、若き日の思ひ出として永久に残したいものだ、新京までは荷物の関係で記していない又署名がないので書かないでおく、歸りの船中生活は競泳チームと重複するので省略する。(松本生)

6月24日

今朝6時ハルピンを通過す。列車出發までの二時間を市街見物と出かける。松花江附近で滿洲氣分を味ふ。東京を出發して4日我々は元氣一杯一路滿洲里へ向ふ。廣漠たる滿洲の野は此處まで來て増々開ける。夜に入り興安嶺にかゝる。

右に宵の明星左に三日月か……

聖なる滿洲の野は靜かに暮れて行く……

眞紅な夕陽は汽車の前に消えた薄暮はいつまでもいつまでも續く。

焼けつくやうな夏の一日が漸く宵暗に溶けて行くこの頃になり食堂が漸く賑ふ。食後ポータブルを圍み米若にしばし日本人らしいセンチメンタリズムを味ふ、皆な非常に自重してゐるのか間食も少なくなつた。食事は可成喰べるが量に於て相當不滿らしい。或者は守備隊員に話し込むもの、便りを書くもの、

独自の満洲見解等を吠くもの……、楽しい旅は我々に何時までも眠る事を忘れさす。

6月25日

満洲里着一時卅分、いよいよ本格的シベリア鐵道に乗換へた。

税關検査のため半日を無駄にす。實に不誠意極まるもので日本人らしい興奮を覺ゆ。車中にて満洲里日本人會よりの日本食辨當に舌鼓を打つ、日没九時半。

6月26日

國境八十八番驛を出て午前四時半（モスコー時間この頃より時間がわからなくなる）チタ驛着。四五時間停車。各チーム軽いトレーニングに掛る、一食約四圓の食事だがまづいのでそろそろ内地より持參の罐詰に手をつける。氣温低下内地の四月頃。各自の氣持が可成ナーバスになつて來たらしい、列車はセ、コマシイので特に清潔を必要とす、汚くして置く處にナーバスになる原因と結果がある。

6月27日

朝白樺の林を通じてバイカル湖が澄み切つた水面をみせてゐる。山には雪を見る、折々過ぎる貨車に軍用の鐵材を見出す、平穩な伸び切つた自然に依る心のゆとりをこれに依つて破らる。皆元氣だ、米が食ひたい。

6月28日

明後日がモスコー着らしい。全くロシヤの時間は當にならん。出發の時今から二週間かと考へたが其の二週間の長旅も半ばに達した。ヘバリも愈本格的だ、喋りたくない。氣が立つ。日記の材料を漁るのさへ嫌だ、汽車はひた走りに西に西に、今日は昨日のバイカル湖の風光に比すべきもなく、つまらぬ眺めだ。

6月29日

今日は暑いといふ事に盡きる、晝前からジリジリ暑くなりだし晝食後から夕食前にかけては殺人的だ、全くむし風呂である。各人の時計がまちまちだから食事を標準にするより仕方がない、女流選手の隣りであることもこう暑くなると不便を感じる。パンツ一つで廊下を歩くことも出来ない。皆の部屋をのぞいてもものたうちまはつて、身體の置場に困つてゐるらしい。夕方より少しは涼しくなつてきた。

車窓より一見しただけでは共産ロシヤを云々することは勿論出来なからうが浮浪兒の多い事、婦人だつて素足でみすぼらしい姿をして労働に従事してゐる、これによつて彼等の生活程度の一端は知ることが出来る、こう考へるとロシヤ式コンミュニズムファツシヨには理論は別として養成出来ないものがある。

6月30日

昨夜の荒れ模様も大したこともなく、今朝は小雨勝ちの薄曇りで温度も低下し凌ぎよくなつて來た。ウラル山脈を越えたのだが別に平原と變りない。アジャロシヤとヨーロツパロシヤとの堺のスエルドフクスは革命當時ニコラス二世の慘殺された處とのことで默禱をささげた。これより歐洲に入つたやうな氣がする。夕食後明日午後九時モスコー着後の行動について本部よりの達しあり。

7月1日

一昨日來の雨もからりと晴れあがつた、ウラル山脈は下り坂となりモスコーにあと一息となつた。汽車は急ぎ足となり驛々の停車時間も短縮され只走りに走り續けてゐる。窓越しに映する風景も歐洲らしくなつて來た。十日に亘る長い車中生活で唯一の慰安となつたレコードもだんだん耳障りになつて來た。食堂のロシヤ料理にも大分馴れて來たがやはり日本人には米がよい、あと一時間以上もあると云ふのに皆降りる仕度をしてゐる。

午後八時五十分遂にモスコーに到着、誰もが安堵の色を顔に浮べてゐた。此處まで來ればシメたものだ、直ちにバスに分乗して“おのぼり”式にモスコー市内見物にかかる、この都會の第一印象はなかなか立派な都會であると感じる事だ。シベリヤ沿線で見つて來た風俗とは雲泥の差だ。所々で文化の發達の一端を偲ばれる併しこゝが赤の本場所だと思ふとシヤクにさはる。特に到る處でレーニンの像をかゝげてあるのは鼻に付く、途中青年男女の半裸體の行列に會ふ、實に潑刺として自由の感を受く、一同初めて見る異國の都會に驚異の目をくばりつつ、疲れをこらへて一つでも見のがさない様にしてゐた。大使館より贈られた「にぎりめし」に舌鼓を打ち赤の都にさらばを告げる。

7月2日

愈々ソビエツトの最後の旅程を終へてポーランドへ入つた、皆朝起きると荷物の整理で一騒動、それ

でもソビエツト側税關の車内検査は嬉しかつた、國境を越してポーランドに入ると眼に見るもの總てががらりと變る。税關吏、軍人等の美しい服裝は玩具の兵隊にも似てヒサシの長い帽子はプロシヤの兵を想はす、ポーランドの税關は簡單であつたが言葉の不徹底とポーターのするさには弱つた、その上汽車の出發は遅れると云つた具合で、ごたごたしたがソビエツトの旅を終へたといふ軽い氣持は少々の故障を超越してゐたやうだ。

ソビエツトに比してポーランドの風物は平和の相が著しい、服裝は目立つて美しくなり“馬子にも衣装”でもあるまいが顔形まで美しく見える、樹木は白樺よりも赤松、杉等が多くなり家屋は藁ぶきのもの多く日本の家屋を想はす、そして一つの大きな疑問を解き得た、それは映畫“未完成交響樂”の一場面で丘が縞になつてゐるのを不審に思つて所謂映畫トリックのやうな氣がしたがポーランドの畑は全く映畫の通りだ。多分麥だらう、それが熟して黄色になつた所と緑に揺れてゐる所とが交錯してそれが細長く續いて丘を登り降りしてゐる。そしてそれが實によく耕されてゐる。ソビエツトの漠たる野を眺めた目には耕された野畑は懐しく故郷を想はす風景だ。併しあんな耕地は日本では見られない、家畜の群が草を喰む姿も詩的でいい、ベルリンに近くなると皆も緊張し競技の話に花が咲く、十時過ぎ首都ワルソー通過、明日のベルリンを想像し乍ら寢に就く。

7月3日

ストロプチェ驛午前三時半着國境驛でおなじみの根來氏の顔を見て懐しく感じた、先發隊の色々な話を聞き伯林に着く、驛頭での物懐い歓迎、小雨降る中、ものともせず打ち寄せたる群衆、これ程まで獨逸國民が我々日本人に好意を持つてゐて呉れるのかと先づ第一印象をよくした。先づ市役所訪問、長い並木街道を揺られ待望のオリンピック村に入つたのは晝過ぎだつた。先發の馬拉ソン、男子競泳チームの張り切れさうな元氣な顔に迎へられ村長(陸軍大佐)の挨拶後日章旗を先頭に堂々と入村した。

考へれば長い二週間だつた、希望に燃えては居たけれど苦しい旅行であつた、色々な事を教へられ、神経が尖つて來ると現はし勝ちになる赤裸裸な人間性、又通過して來た國情等實に生きた學問をした。愈々伯林に入る前我々は次の如き事を松本コーチの前に誓つた。

“我々は戰に來たのである、一切の私情を殺して一致團結雌伏四年の意氣を以て敵に當る事を”

成程我々は感情の動物である以上、常に不平不満は絶えぬものであらう、ここに發展もあれば向上進歩もあるのであるけれど今や我々にはそれに勝る義務を持つてゐる、國旗に誓つても堂々と戦はなければならぬ、一切の私情を捨てる事が急務である。色々なことを思つて伯林第一夜を楽しく寢に就く。

7月4日

二週間に亘る旅装を解く。伯林第一夜は疲労のため朝八時迄眠る、起床後日課表發表(主として競泳軍と歩調を合すため)

起	床	午前6時30分
		遙拜式 體操
朝	食	午前7時30分
練	習	" 9時30分—11時30分
中	食	正 午
休	養	午後1時—2時30分
練	習	" 3時—5時30分
夕	食	" 6時
就	寢	" 9時
消	燈	" 9時30分

練習試合共の他のため適宜變更することあるべし渡歐最初の練習に行く、練習場にあてられにスポーツホーラム(體育大會)は實に他國に見られぬスポーツの殿堂とも稱すべき所で設備萬端完備してゐることには驚いた、我々はここで心おきなく練習が出来ると張り切つた、先づ水に慣れるために長距離を泳いだ、古莊氏車中の突き指未だ癒へず。練習場より村までのバスの卅分、相當長いものであつたが沿道の市民の歡待(ハイルと言つて右手を擧げ敬意を表す)に退屈も感ぜられない、夕方より晴れた空に懸る満月の美しさに魅せられる。

7月5日

日課表により行動す、プール番が日曜日に練習すると云つて不思議がる、我々には日曜日も安息日もない、ただ練習に次ぐ練習だ、午後小雨模様にて冷寒を覺ゆ、基本練習を主とす。

7月6日

相當へばりが出て來た、最後のバツテンには動かない者數名あり、古莊はまだ練習出来ない、キーパーが一人の爲思ふやうに練習出来ないのが残念だ、競泳チーム、フリーダーなので思ふ存分プールが使用出來た。

午後フアード主としてリレーシュートの練習をす

高橋少々困憊の態、スパンダーのコーチより試合の申込あり快諾し十日を期してスポーツホーラムで行ふこと決定、五時半過ぎ歸村、午後八時よりプレッゼンシーにて獨 ATC クラブ對スパンダーの試合見學（松本、阪上、安部、根來）田舎の海岸チームの感あり、前者五對三にて勝つ試合の感想

- ◇ 泳ぎは一般に弱い。
- ◇ 相當ラフで平然と反則を犯してゐる
- ◇ 水中テクニクもレフェリーの見方一つで生きてゐる
- ◇ バツクマンのマークはヘンガリーと異つて完全なるインサイドマーク（壁の如く付いて肩に手をかけてゐる者あり）
- ◇ 屢々ロングシュートを試み、ゴール前のパスは一般に高い（カットのおそれあるを以て）
- ◇ レフェリー術も進歩してゐるとは思はれない最も唾棄すべきは競技者がレフェリーに従はず各人勝手にプレーしてゐること

異國の試合を久しぶりに見て相當收穫を得て十時歸村。

7月7日

練習に變りはない、練習に通ふバスの中で獨逸のスクールボーイと英、獨語の會話の稽古、奇抜な會話をやつてゐる者、ハイラーソングの生かじり嬉ばして呉れる、午後注文しておいた寫真機届く。しばらくは一同カメラマン……コンタックス、スーパーシックス等々……。

午後の練習を終へて歸村すると皆の顔には微笑が浮ぶ、ヒンデンプルグ(オリビツク村の中の劇場)行きだ元氣がいい……。

7月8日

練習は例の如く元氣に終了、東京を出發して早や二旬に滿たんとしてゐる。そろそろホームシック患者が出現して來た。

月が鏡であつたなら……

忘れちや嫌よ……

アマツタリイ歌聲が時たま聞える。

時の流れに引廻され乍らの此の生活がやがては若き日の思ひ出になるかと思ふと窓際の一草にも懐しさを感じる。

7月9日

昨日の午後の休養で幾分疲労が恢復されたやうであるけれども完全には取り去られない、午前の練習

の時ウルガイのチーム來る、一同練習を見る。

- ◇ スイミングラウンドパス（約 56 分）ウォームアップなし
- ◇ バツクの追ふフオアード・ドリブルシュート
- ◇ フオアード・サイドドリブル
- ◇ バツクはロングシュート（ハーフライン邊より）
- ◇ バツクよりのパスをフオアード・ドリブルシュート

基本練習の後五名づつ分れて簡単なゲームをなす。評すれば一般に泳ぎが弱く南半球の氣温に比して冷たい故か僅か三十分にして引き揚ぐ、ハンドリングも前回のブラジルチームより劣つてゐた。午後はとみに冷氣加はる、明日の初試合をひかへて早々引き揚ぐ。

7月10日

外國に來て初めて試合をするといふので皆張り切つてゐる、午前中軽いトレーニング午後八時より試合開始（相手チームの勤め人の關係より）結果は後半の疲労で五對二にて破れる。疲労もさることながらチームワークのとれなかつたことが第一、今後は一心同體となり強敵にあたること。

7月11日

渡歐以來初めての自由行動だ、喜々として街に出る。買物に次ぐ買物……市民のよく訓練された態度、異國人に對する親切、又建築に至つては流石歐洲の中心をなす都市だけあつてすばらしい、何にもかも驚異の眼をみはることは大國民として安つぽすぎると思つて口には出さぬがそのクラシカルな落ち付いた建物、銅像等は素人の我々さへも感心せざるを得なかつた。夕食後各人御自慢の買物を出して悦に入つてゐる、童心に立ち還つた姿だ、朗らかな夕べだ。

7月12日

昨日のショッピングで又へばりが出たのではないかと心配する、豫定の如く練習をす。夕食後日本の新聞が配られた、でも六月廿六日のぢやね……。

“月が鏡であつたなら”のあの切ない歌が禁止になつたと誰れかがつまらなさうな顔をしてゐる。日本からの最初の便り、殆んど“お月様”よりの便りらしい。とてもとても嬉しさうだ、早速御返事か、でも二週間以上も経たなければ“お月様”の所へは届かないさうな……。

7月13日

朝の體操に起きにくい連中がぼつぼつ現はる。推察力も語學の中の一要素であるとするならば皆な物懐い上達をなした譯だ、一を聞いて十を知るなんてまだよいとして無より有を時々作り出してしまふから大したもんだ。先ず食堂に這入る、とても美味しそうなバナナがあつた、こりやーお前南洋産だよ、オランダに Sweetest のマークがあつた、S の頭文字一つ見てこれやお前サンキストだからアメリカ産だよ……、ここらはまだいいとして少し進歩した達人等になると便所と手洗所を間違へて悠々便所の水洗で手を洗つた勇者も一人や二人ではない。面白い現象だ。

7月14日

午前の練習にて相當へばつてゐる、もう一ふんばり、この波を越せば調子が出るのだ、午後は曇り勝ちで流線型の者は身にこたへるらしい、シャワーに掛るのが早いこと…。夕食後村の活動に行く、オリンピック、冬季競技のニュースを見て皆張り切り來るべき試合に對する軽い興奮を覺へる。

7月15日

朝の體操、何んと言つても起きるのがつらい。六時頃から起きて體操するより國旗掲揚式まで他のチームの様に睡眠をとつた方が疲労が休まるのではあるまいか。午前中の練習は平常通り。午後は村のプールに行く軽い練習後 O. B. 安部、松本、根來の諸先輩を加へりレーをやり、その老衰ぶりを拜見し腹をかかへて笑つた。夜は大使館の招待があり日本軍一同揃つて出かける、澤山の同胞諸兄に御會ひ出來、心からの聲援に又感激を新にするものがあつた。演説の後一同久しぶりの日本食に腹鼓を打ち、壽司の山も忽ちくづれ、バンドをゆるめる連中も可成多く非常に愉快な一夜を過した。

7月16日

寝て起きて食つて體操して練習して一日が終る。規律正しいと云ふか、無味乾燥と云はんか……。一日は無味なれど練習は面白い。殊に外國選手が見てゐると皆相當に張り切つてゐる、松本コーチの寫眞が出来上つて來た、見ると仲々良く撮れてゐるので感心した、然しよく見ると彼氏の入つてゐる奴が大牛だ。之は要するに他人が撮つたものと云ふことである、どうも彼氏にしては出來過ぎると思つた。お

傳さんは相變らず食堂のファイターである、奥さん經の料理より獨逸の料理がうまいのか。三郎君が神衰弱なりと稱してゐるがどうかと思ふ、あの朗らかな人がね……。

7月17日

天氣晴朗なれど水寒し。午後四時出發、ワイセNDER に行く途中安部ちゃん操縦の自動車事故を見る。試合場は湖とも池ともつかぬ所でその水たるや特に泥水の感がある。さすが獨第一のクラブチームだけありよく動く、テクニク、タクテクト合せ有する優秀なるチーム、我軍終止攻撃戦法に出たがパス悪く、そのすきに乘ぜられノーマークより得點を重ねられ思はぬ大敗を喫した、この弊は内地にゐる時より選手一般に抜けきらず、ドリブル後の處置最も悪し、試合を評すれば

- ◇ バツクのマーク不完全
- ◇ バツクよりのパス不正確(メクラパス多し)
- ◇ バツクドリブル後に於けるフォワードの動き悪しゴールラインに平行に一直線になるバツクのドリブルを活かす事緊要
- ◇ 呼笛後動く者多し

要するに我軍タクテクトの缺けたる點を暴露し、徒らに猪武者の感あり、その攻撃精神は賞すべきも守勢の方法を考へざるべからずの感を深うした。然し又この試合の結果、新知識を獲得し大いに有意義な試合をした。

7月18日

昨日の試合に於ける各人の忌憚なき意見を聽く。
(阪上) ゲーム中にナーバースになる點悪し、攻撃に出た點は了とすべきも時と場合によつてはフォワードの一人はバツクに歸らなければならぬ、又ゴールキーパーは味方の攻撃の位置に投ずること、スピードを生かすために今後バタ足の練習を必要とす。

(高橋善) 味方の力を巧に利用すること、各人ドリブル後の始末悪し個人的に云へばフォワードのパスが悪かつた。

(田野) 攻撃、防禦共に身體の過重に比し悪いとは思はないが結局チャンスを探み得なかつた

(若山) 噂に聞いた程彼等はきたないプレーはしなかつたやうだ、バツクのパスが目立つて悪かつた。

(勝久) レフェリーが嚴格すぎる感があつた、ゲームが屢々中斷され我軍戸迷ひの形だつた。

(前田) 上から見るとドリブル後の處置確かに悪い、攻撃四人に防禦二人となり決定的なシュートなきため惚ち逆襲さる、この點大いに考ふべきことと思ふ。

(片岡) シュート極らず全體のプレー未だ見えず。

(和田) 攻撃に出すぎた感あり各人パス悪し、一般に泳ぎが弱くなつたやうだ。

(高木) もう少しマーク主義にして消極的な練習をしてはどうですか。

(古莊) キーパーとバツクマンとの連絡缺けてゐた又後方より全軍を指揮する意志がない。

(高橋三) 同感です。
大體以上が皆の意見で有意義な研究をした。
午後の練習は平常通り。

7月19日

午前は平常通り、午後別のスパンダーと試合をする、倶楽部の競技場と云ふのであるがワイセンジーと同様湖の中の海水浴場と云つた所、水は例によつて沼水……このチームは伯林第四位とか、必勝を期して向つた、結果6~4で又破れた。破れる筈はないと思ふ位力を餘してゐるやうな氣持だつたが、敗因は相手方停止フオーワードを壓へきれなかつた事に基因する。更に更に攻撃力の必要を感じる、學ぶ所は停止フオーワード以外にない、午後4時よりオリピックプール開きで賑ふ。

7月20日

今日は在獨日本人會の好意により後發水上軍全員伯林市及ポツダム附近に見物に向ふ、女子軍同乗市街はさることながらポツダムは水明にして綠深し、白鳥悠然とこの清なる自然に浮きて動き更に靜なり幾多の歴史的物語を深く秘めしといふこの近郊、その名残をしみじみ味ふ、悠久なるもの!「白雲の去來は巨人の足どりの如くゆるやかに天涯は、はるかに流れてゆく、日が沈めば月がのぼる元來無縫のリズムは遠き星の彼方より心の糸に觸れてくる。サ

ン・スウシーの公園は良けれども深みなし、ただ昔を偲ぶ想像を美しく加味してのみ良し、ポツダムに歸りて中食、市内見物、印象深きものなし、動物園規模大なり、スカラ座見物……玉木座の延長……日本人倶楽部にて楽しく食事、夜9時歸村。

7月21日

故國を離れて丁度一ヶ月振りの朝が明けた、昨日の目まぐるしい行樂の疲れのためか皆目をこすりこすり體操に出て來る、毎朝同じやうな體操ではあきてしまふ、何か他のテキストにしてみらひたい、今朝から陸上軍と馬術軍が加はり全員揃つたわけである。食堂がとても賑やかだ、朝の練習は長距離を泳ぐ、一昨日の試合を省みて特にフオーワードシュートに重きを置く、午後は平常通り。夜は揃つてヒンデンプルグに映畫見物し、シュメーリング對ルイスの世界重量拳闘選手權試合に心を踊らせる。

7月22日

相變らず朝はねむい、ねむくない朝がこの伯林には無いのだらうか、午前の練習にウルガイチームと練習試合を行ふ、器用なハンドリングはやるが泳げないため問題にならない、午後の練習は阪上主將に依頼し、試合用のオフィシャルボール購入に街に行く、夜は日本よりの新聞を熱讀、二・二六事件の判決のあまりに重いのにしばし啞然、九時半就寢。

7月23日

午前中平常通りの練習を行ふ、午後スパンダーとの三回目の試合を行ふ、今日こそ是が非でも勝ちたい、一同張切つて競技場に通ふバスの中まで朗らかだ結果7-1で久しぶりで我軍の勝利となる。審判も感じよく敵フロテイングフオーワードも威力なくそれに反して我軍協力一致よく着々と點を重ねて行く、やつと練習中の技術が出たなと思はれた、これから調子を出さなくてはならないと歸りのバスの中で勵し合ふ。9時村に歸りサンドウイツチを頼り

サン・スウシーの公園にて憩ふ水球選手



ながらしばし今日の戦跡を語り雑談の花が咲く。

7月4日

毎朝の行事の中にパレードの練習が加はつた、國旗掲揚式後食堂まで行進た、こんな規則正しい訓練は日本だけではなからうか、練習場にも活気が加つて来たやうだ、それに反し選手は少し疲れてゐるらしい。

7月25日

ライブチツヒの水上聯盟より招待され、午前9時に出發。2時間後見知らぬ土地に到着。折からの雨を衝いて先方の好意により市内見物、疲れてゐる時引張り廻はされるのは反つて迷惑だ。午後6時より競技開始、都合により水球、競泳を兼ねる、水球は3對3の引分け。競泳は何んと云つても問題にならない彼等のレベルの低いのには驚いた。夜の招待會、名ばかりで内容の充實してないので一同憤慨す。食ひ直しをやる連中多々あり。

7月26日

何の心配もなく、フワフワしたベッドの中で心ゆくまでもぐつて、久しぶりにゆつくり寝こんだ、茂さんが起して来る。ゲエテが學生時代酒を飲んで大學に通つたと云はれる穴倉でライスカレーの朝食、頗る美味しかつた。故人が飲みほしたかと思はれる酒樽にまたがつて寫眞を撮る。或はその酒樽に己が姓名を刻み込む者、今頃はゲエテが地下でくすぐつたがつてゐる事だらう、泰西名畫が數多くある博物館に行く、伯林への歸途ルーテルの宗教改革で有名なウイツテンベルグに寄り當時を偲びて感慨無量、伯林で日本食を終つてショート・トリップを終る。

7月27日

伯林での最後のフリーデーである、思ひ思ひに買物に出かける、相當くだらない買物をして後悔してゐる連中多々あり、夕方より雨模様。

7月28日

二三日の疲れでぐつすり休む、茂さんの聲も聞かない氣がした、はつと起きたら八時前、驚いて飛び出したら雨だ、しめた道理で起しにも來ない、體操もなかつた筈だたまに雨の降るのも休養になる。然し練習に於ては水の冷たいことが苦手だ、丁度東伏見時代を思ひ出す。

7月29日

：水球の組合せ發表あり、日本第三組に獨、佛、チエツコと組む、相手にとつて不足はない、對外人との試合に自信を得た我々は意氣と熱と力を以て是等第一戦に優勝しなければならぬ、今こそ祖國の爲一致團結最善を盡さなければならぬ。

開會近づく——世界の若人集ひて祖國の榮を争ふ
東の男子よ共に共に！

北歐の空高く若き日本を謳歌せしめん。

7月30日

本日最後の練習ゲームをワイセンジーと行ふ、第一回戦には16對2にて完全に我チームの取るべき幾多の戦法、守るべき多くの點をスコアー上に如實に示された教へられた、發憤させられたが、

前半 7 : 6 } 前半一點リードすれど後半バツクマン交代の際に乗ぜられ9 :
後半 2 : 6 } 16にて惜敗す

されど渡歐當時に較れば異狀の進歩である、月桂冠近し、最後の仕上げを待つや大なり。

7月31日

今朝はいつになく空はからりと晴れて、一點の雲もない、正にドイツ晴れとでも云ふべき良いお天氣である。起きて来る者ごとに氣持よさそうな顔をしながら大空に向つて深呼吸をしてゐる。何處かで「今日はフィルター日和だよ」と明日を控へて英雄閑日月の感あり、次回大會が「東京」「ヘルシンキ」と囂々たる噂あり、日本が勝つやうに祈つて寝む。

8月1日

世界スポーツの最高峰、待望のオリンピック大會も愈々今日より開催さる。朝の國旗掲揚式の時、石田大佐より次回大會は東京だと、我々は東の空を向いて萬歳三唱した、これで我々の任務の一部も果たたと云ふもの、何んだか朝から朗らかだ、豫定の時刻に入場式に臨む。スタジアムの上にはヒンデンブルグ飛行船の雄姿現はれ莊嚴なる入場式に錦上更に花を添ふ感があつた、定刻4時ヒツトラー總統紅顔を現はし開會を宣言……嚴そかな開會式オリンピックの鐘がグルネワルトの森に飡する、獨逸國旗ハーケンクロイツを中心に五輪旗、各國旗翩翩と翻へる、遠く聖地ギリシャオのリンピヤを出發した聖火は七ヶ國千八百余哩の道程をしかも三千余人による炬火リレーを以てオリンピック塔に點ぜられた、嗚呼その劇的情帳は終生を通じ忘れることの出来ない感激であつた。「オリンピックは勝つことではなく競技に参加することが最大の名譽である」とその創始

者クーベルタン男爵は言つてゐるが特にその言の如しだあの感激だ！我々はベストを盡すことを誓つて亢奮の中に寝に就く。

8月2日

今朝より各部代表のみの國旗掲揚式を行ふ、午前中ウルガイとミックスにて練習ゲームを行ふ、問題なく大勝す、まるで泳ぎが出来ないチームだこんなチームと組んで居ればと誰か愚痴を言ふ、午後陸上第一日の應援に行く、期待した吉岡選手第二豫選で失格、一萬米で三人を敵にまはして奮闘した村社選手——涙ぐましいシーンであつた、到る處で日の丸が活躍してゐる、青年日本の意氣を示して呉れる、嬉しい限りである。夜村の劇場に藤原義江を聞きに行く。

8月3日

起床六時半も水泳チームだけのやうだ、各國チームが揃つたため練習時間が制限さる、僅少なる時間で効果的に成果を擧げるには骨が折れる、凡て今後の練習は敏感を要する、午後村内で陸上競技のテレビジョンを見る。立派なものだ。夕食後佛對ワイセンゼイの試合を見學に阪上松本と出かける。學ぶべき數々を語り以後の策戦に備ふ。

8月4日

朝から雨模様で寒い、一日一回の練習も出遅るやうだ、でも心に拍車をかけて猛練習をす、最後の仕上げだ行こうぞ、無心に練習してゐる時の氣持が一番いいんだよ。

8月5日

試合が近づくにつれ皆の張り切り形が變だ、却つて冷靜になつて呉れる方がたのもしい氣がする、でも若い者にそれ位の氣概は必要だ、何んでも善意に解釋したい、午前中英氣を養ひ、午後オリンピックプールで初練習をす、絶好のコンディションだ、これなら申分ない、練習歸りに陸上競技場を一巡す。七時歸村。

8月6日

勿論戦は時の運だ、でもやれる事だけなら馬鹿でもやれるよ、これが我々の戦を前にしての心境だ、なんとかしたい、なんとかしたい。練習も愈々調子を落し専ら精力の蓄積だ、毎夜出かけたハウスヒンデンブルグの活動寫眞見物も今夜は誰一人として行

かない、そのグループの大將茂さんが身體の調子悪く床に付いて居り次將寅さんも尻にネプトを作つて弱つてゐるらしい。

8月7日

太陽の光は誰かの頭の様段々と薄くなつて行く北歐の8月は日本のそれと較べて余りにも涼しい秋への前奏曲である、それにしたがつて水が冷たい、伯林に到着した時前々聞かされてゐた18度の水溫は嘘だと思つてゐたが遂に實現した、否18度以下だ、日一回の練習は余程退屈だと見えて各自各室に御氣嫌うかがひに出て來る、先づ自重。練習が軽い。

8月8日

午前軽く村の室内プールで練習、待望の對チェッコ戦前半3對0でリードされ後半頑張つたが1對3結局4對3で敗れる、チェツコのフローティングフォワードは相當強い、我軍も和田の退水がないれば或は勝つてゐたのではないかと愚痴が出る、然し考へてみれば味方の得點中2點はペナルティスローと退水のためだつた、それを思へば敗れたのも當然と考へられない事もない、明日フランスだ、玉碎主義で當らう。

8月9日

フランスに完全にやられた、後ドイツとの一戦を残すのみ、言葉一つかける元氣もない。チェツコとフランスは對戦すれば相當な接戦を演ずるだらう、軍配は何れに上るか豫想出来ない。何故我々はチェツコと接戦しながらフランスに完敗したか、それはフランスにスピードがあつたやうだ、逆襲のチャンスを実に手際よく掴んで試合はリードされ通しであつた、スピードがあつてテクニクに劣れば當然敗れるべくして敗れたやうな氣がする、然しフランスにはテクニクの特に優秀なる者がゐない、若し我々がスピードを完全に生かして試合をリードしたならば立派なゲームが出来た事と信ずる。

8月10日

對ドイツ戦12對2で敗れる。全敗だ勝敗は時の運か？これは技量伯仲してゐる時に用ひられる言葉ではなからうか、言ひ譯は省きたいが實力から行けば10點以内で喰ひ止められ我軍も2、3點の得點能力は充分あるやうな氣がする。愚痴だ！愚痴だ！我々のスピードが彼等に相當の恐威を與へたことがせめての慰めだ、これで萬事休す。一ヶ年の辛抱が

こんな結果にならうとは……四年後の捲土重來を待たう。午後百米の決勝でハンガリーのチツクにしてやられた競泳もスタートが悪い、頑張つて再制覇して貰いたいものだ、我々の力できつと勝たせよう。



ハンガリーのゴールキーパー（對日戦）

8月11日

午後より競泳の應援に行く、800米リレーは世界記録で優勝する、エントリー前は10秒を割る者が5人もゐたが結局一人も割れなかつたのが残念、一般に調子が降り坂ではなからうか、米國と反對のような氣がしてならない、女子200米平泳で前畑嬢優勝する、大接戦の後勝つた彼女の精神力には恐れ入つた、これで思ひ残すことなく勇躍隠退して立派な家庭の人になられるだ、うら彼女のために多幸あれかし…。

8月12日

400米の決勝又してもメデイカにやられた。これで日米對抗を加へて5度目の敗戦だ、何故400米は日本軍勝てないのだろうか。それにしてもメデイカの自信も恐ろしいものだ。350米まで3、4米も離されてゐながらラストの50米でスパート物凄く我軍を抜き去つたあのダツシュ——自信なくてどうしてあんなに出よう。400米に負けたのでなく完全にメデイカに負けたのだ、日本軍今後の奮起を望む。スポーツホーラムにて對スイスと水球試合を行ふ。5對1にて軽く勝つ、全く問題にならず學ぶ所もない。

8月13日

ハンガリー對ドイツの水球戦があると云ふので張り切つて行つたが延期となつたと聞いてがっかりする、氣のゆるみか病氣になりさうなものが多い、注

意を要する。平泳、1500米の豫選あり、平泳は好調子1500米はメデイカが強さうだ。

8月14日

競泳の形勢逆轉する、危いと思はれた平泳が葉室の好調で優勝確實と思はれるに反し、大丈夫と思つてゐた1500米で鶴藤、石原田が準決でメデイカに敗れ、望みは寺田にかけるのみとなつた。水球の決勝戦とも云ふべきハンガリー對ドイツ戦あり、物凄くエキサイトして兩國代表いささか上り氣味で反則多く攻撃は殆んどフローティングフォワードに任せられ思ひ切つたプレイは見られなかつた。結局フローティングフォワード以外は攻撃力薄くゲームは消極的で敵失を待ち2對2で引分けとなつたが試合としてはハンガリーに有利であり、タクテックに優れたハンガリーのフローティングフォワードに一日の長があつた。然しドイツは力のプレーをしてよく頑張つた。我軍もあれまで進むには未だ道は遠い。

8月15日

水泳日本の生命を賭しての戦ひは遂に凱歌は我等に揚つた。葉室は豫想通り飛び出し巧く逃げ込み立派に優勝、續いて1500米に於ける寺田の奮闘は涙ぐまきものであつた。傳統の力がさうさせたのか應援團も狂喜した。日本軍が勝つたのだ。ヒットラー總統も初めてプールに姿を現はし水上日本の征覇を目前に見た。夜日本人會の送別會あり非常なる盛會で武者小路大使の挨拶にヒットラー總統が日本選手は個人のために戦ふのではなくて國家のために戦つてゐると賞讃し、次回東京大會には多數の選手を東京に送ると約束したと云ふ事だ。日本人が國家のために戦ふと云ふ事は潜在意識で持つてゐる事は確かだ。その他大使より色々賞讃を受けると自ら顧みて恥しい氣がする。

8月16日

明日から歐洲轉戦だ。オリンピック村ともさらばだ、各人荷造りで忙しい。午後六時から閉會式があると云ふので出掛けたがとうとう九時になつた。氣の短い日本人なら到底我慢して最後迄残る者は殆んどないと思ふが歸るものとはなく、國民性の相異を痛切に感じる。オリンピック競技もこれで終りを告げたと思へば何んだか重荷が降りたやうでがっかりした。疲れが一時に出たやうだ。

8月17日

6時半起床、朝食抜きで直ちに停車場へ向ふ。晝前ハンブルグ着、領事外在留邦人の熱烈なる出迎を受く。エルベ河の邊に位するハンブルグは獨逸第二の都會で港街にふさはしく、風景は美しい。三時のお茶の時間に領事館で壽司の御馳走になる。實に美味しかった。アナゴが入つてゐたんだもの。試合は夕方からだ。相變らずプールの水は汚い、簡単に河を仕切つてあるのだから船か通ると波が立つ……在留邦人の歓迎に對してもと皆張り切る。ジータスが來てゐた。水球は3對3の引分け、夕飯は日本人會の接待で握り飯にありつく、これ又珍味だ。

8月18日

早朝ハンブルグを出發してハノバーに向ふ。中食後市内見物、此處は公園の中に街を建てたやうだ。畑を2年間も掘り返して湖水を造り河の水を引上げて游泳場を造つたと云ふ。成程立派だと思ふが随分無駄な金を使ふ所だと思つた。然し聞いて見るとハノバーは獨逸で最も富裕の都市との事、市廳舍も獨逸第一だと云ふ成程立派だ。競技は矢張夕方、プールは汚水に違ひない、これはドイツプールの常識だ。「競泳は問題にならないでせうが水球はお相手出来るでせう」と、お相手出来るわけ、獨逸代表選手が五人もゐる。7對1で敗れる。獨逸人は演説の好きな國民である。驛頭でも市長を訪問しても食事の時も必ず一席やる、それに食事時間が長い、これでは身體が持たないと心配する。

8月19日

ハノバー驛でB組と一緒にマゲデブルグに向ふ、此處はラデマツヘルを生んだ所有名なヘラス俱樂部がある。往年の覇者ラデマツヘル君が驛まで來て色々話をしてくれる。我々は特に親しいので感銘を深うした。有名な俱樂部の持つてゐるプールとしては實に貧弱すぎる、泥沼を仕切つたといふだけで寧ろ釣り堀の感がある、こゝで日本男子水上代表軍全員と獨逸の有名な選手が合して競技が行はれた、相變らず競泳は無敵だが水球は名もなき奴ばらに又敗れる、ざまはない。

8月20日

午前十一時マゲデブルグ發、既にB組は出發した後だ、正午過ぎライブチツヒ着、中食後水球チームは直ちに電車でケムニツツに向ふ、田舎の土臭い所だらうと思ひの外立派なる工業都市で特に室内プールは獨逸第一との定評がある程設備萬端立派なもの

だつた。競技場プールは室内プールと異つて相變らずのプールだ、入場式に於ける國歌の間違ひから色々問題が起つたが結局市長が謝つたので競技を續行した、水球選手が競泳もやり何にもかも抑へてしまつた。競技の終了後我々十二人で君ケ代を唱和した。この街に唯一人の日本人あり、約四十年も内地を離れ現代の日本語は殆んど知らず通釋の勞をとつていただいたがお互に徹底せず弱つたがそれでも懐しかった。何んでも十二歳の時に曲馬團に咬らはれたとのこと實に氣毒だと思つた。

8月21日

夜遅く競泳軍と列車で合しブダペストに向ふ。目覺むれば列車はチエツコの野を走つてゐる、昨夜の税關は脱れたらしい、晝前ウイーン到着、驛前の汚いのに驚く、歐洲大戰後引續き疲弊して國政も振はず赤と白とが抗爭中で結局ナチスの勢力の延びる所だらう。寸暇を利用して市内見物に出かける、驛前の感じとは全く異なり音楽と繪畫の國だけありサビのある處を一巡す。日本の京都といふ感じ、トンネル並樹の中にある酒場ハプスブルグ家の美しい屋敷等繪に見るウイーンの風景を如實に味合ふ、公使館に行き物凄いピフテキの馳走を受け三時過ぎウイーン出發、午後ブダペスト着。

8月22日

全く言葉が通じないので困つたのだ、女中に何を言つても解つてはくれない、ままよ押しの一手法、九時頃起きて聯盟の連中の案内で市内見物、ダニューブ河を挟んでブダペストの街ありて夜景は筆紙に盡し難い程美しいものだ。試合の人気はチツクと遊佐との一騎打ちで大したものだ。疲労と練習不足のために又してもチツクに名をなさしめる。水球はさすがは國技だけあつて凄いベストメンバーで戦つてくれたのは頼母しい。勿論勝敗は歴然としてゐた。

ハンガリーの首都ブダペストは東西文明の混和せる處であつて國民は熱心なる親日主義であつた。彼等の言葉をかりれば祖先が同じで東洋に於ける日本の立場と同じであると述べてゐる。

8月23日

前夜の疲れでぐつすり休む、聯盟の好意で午前中活動寫眞見物に出かける。チツクのための寫眞のやうなものだ、こゝにもよくハンガリー氣質がうかゞはれる。試合は葉室が名もなき選手に百米でバタフライ泳法に敗れたのみで大したことはない。夜はダ

ニューブ河畔で月を眺めて夕食をす。ハンガリー獨特の酒を飲まされる實に美味かつた。滞在3日間であつたが最も親切で氣持がよかつた。

8月24日、25日

いよいよ懐しい思ひ出深いブダペストを後に獨逸のデュセルドルフに向ふ。こゝでB組と合し、又も旅を續ける、白耳義の國境近いアーヘンにて試合をする。平凡なゲーム、長いバスの中で珍談奇行で日獨選手大満悦、選手の中には試合に倦怠を覺ゆる連中も出たやうだ。身體はくたくたに疲れてゐるのに試合に次ぐ試合が今後大いに考慮に要すべきことを痛感する。

8月26日

午前9時頃ケルンに向ふ。こゝは有名なるカトリック寺院あり、その壯麗なること世界第二とか、又オーデコロンといふ香水はケルンの水とかいふことで、この町で造られる、我々一行43名はこゝからロンドンに向け飛行機で發つた。36人乗のデツカイ飛行機には一同驚かされたものだ。歐洲での空の旅は實に樂だといふことを發見した。途中ブルツセルに降り、少憩後又機上の人となりロンドンに一足飛びだ。夜のドーバー海峽も美しい、十時半着、ロンドンは寒い、ホテルに着いたのは十二時近く。

8月27日

旅へ出での自由行動の日ださすがは英京だけあつて日本人も多い。知人先輩の案内で見物する。買物する。午後7時より日本人會の招待あり、久しぶりの日本食だ。食ひも食つたり忽ち壽司の山も崩れる。それから夜のハードパーク等を散歩する。

8月28日

午前中はウエストミンスター寺院、議事堂、等々午後は歴史的に有名なあのロンドン塔、タワーブリツヂ、セントポール寺院等を見物する。試合前にぐつたりと疲れてしまふ。午後八時より競技開始、ロンドンでは我々は役者扱ひにされ相當氣分を害ふ、觀衆本位の競技會は以後眞平だ、歐洲記録は一つも破れない水球は敗れたり云へども快適な試合をす。十二時近く宿舎に着く。

8月29日

午前午後買物に費すが物價が高いので殆んどひやかしかが多い、それでも相當無理をする。街を歩いて

も汚く、陰鬱で感じが悪い。何かにつけて保守的な國民であることが目に付く、實に不愉快だ。例によつて競技は夜の八時からだ。ウェンブレイの競技場は立派だが觀衆が面白くない、食事をしながら競技を見る、日本では見られない風景だ、滞在四日だが英國國民は感じが悪いといふ印象を得たのみ。日本では紳士と云へば、すぐ英國紳士と云ふことを連想するがここがその紳士の本場だとは……。一概に我々のひがみばかりでもないと思われるが。

8月30日

朝早く英京にさらばしてパリーに向ふ、ドーバ海峽の靜かなこと、こんなことは稀れなさうだ、B組はオスローに向ふのでパリーはA組のみ、フランスの汽車は立ちづめで怒つたものだ、それに一時間近くも遅着でトランクを持つたまま競技場に行くなど珍現象を演じた。練習をする暇もなく直ちに試合だ、こんな惡コンディションでやつても競泳の方は問題にならなかつた。水球は5對1で敗れたがオリンピック本競技に比べて格段の進歩をしたやうだ。夜はフランス水聯の招待會、美味しいブドー酒をたらふく御馳走になる。

8月31日

睡眠をとるため朝食を止す、午後市内見物。宮殿凱旋門、エツフェル塔等……。フランス人は可成思ひ切つたことをすると思つた。夜は大使閣下の招待を受け日本料理をいただく、其の後ガデノード・フォーリにレヴュー見物と出かける。パリー以外では見られない裸體藝術、若い連中は軽い興奮を覺ゆる。

9月1日

パリーの駢足見物をすましてリヨンに向ふ、車中ではパリーの思ひ出話で一ぱいだ、夕方リヨンに到着直ちに市長訪問、夜は例によつて領事の招待、在留邦人は少くなかつたが實に氣持のいい會だつた。

9月2日

午前中、市内見物殆んど有名なる處なし、河畔の料亭で憩ふ位がせめてもの慰み、旅行も終りを告げるので可成疲れ、ホテルで休む者多い。試合は午後九時、競技場たるや川の一部分を仕切つた流の相當ある所で、然も橋の下、行きは苦しいが歸りは樂といつたやうな所で、恐らくこんな游泳場は日本だつたら許されないだらう。佛蘭西第三の都會がこんな状態だ。外にプールがあつても觀衆の關係でこんな場

所で行ふのである。競技は問題なく。水球だつて 7 對 2 で大勝し氣を好くした。競技が終つて本格的な夕食だ、呑氣なものには驚く、フランス人はよく飲み、よくしゃべる。氣の短い日本人にはむかない、早々に退屈す。

9 月 3 日

歐洲に於ける汽車の遅延は常識となつた。マルセイユ行の急行列車さへ 20 分も遅れて出發する。内地では事故の起らない限り見られぬ有様だ。午後三時頃到着多數の邦人に迎へられホテルで睡眠をとる。夜九時より試合。役員に面白い人あり、審判長兼、スターター、計時員と一人で何にもかもやる。その服装たるやトレーニングパンツをはき笛を持ち實に滑稽であつた。水球は拙戦し 1 對 1 の引分けとなる、危険地帯が多いとのことで早くから休む者あり。

9 月 4 日

午前中市内見物、フランスの觀音様にお詣りする。見晴しのいい所、午後はランチで港内を見物、すばらしい景色だ。モンテクリストで有名なあの巖窟王の島を見る。歸途市長を訪問し、後領事の招待を受け、歐洲で最後の日本食をたらふく御馳走になる。ソバの味は忘れなかつた。可愛いお嬢さんを中心におけさ踊りに花が咲き、可成おそくまで領事館で遊ぶ。

9 月 5 日

午前九時五分ツールズに向つて出發、この附近はブドー酒の生産地で汽車は何里も何里もブドー畑の間に行く、午後三時半頃目的地に着く。フランスの片田舎と思ひけん立派な街である。勿論日本人は一人も居ない、見物にもあきてホテルで眠る者ばかり旅行もこう長くてはいやになる。

9 月 6 日

午後 3 時半より試合だ。何にもかも中學生とゲームをするやうで問題にならない。水球も 15 對 3 で

大勝、相變らず食事が長い、行く所がないので早くからベットにもぐつてしまふ。

9 月 7 日

ツールズを發つてスペインとの國境近いパーピニオンに向ふ、途中下車驛を間違へてとんだ目に合ふ。何しろ一行中佛語の話せる者なき爲不便を感じる。四時間も遅れてホテルに着く、例によつて市長訪問、三十年位前のブドー酒を御馳走になる。

9 月 8 日

午前中佛第一のブドー酒醸造所を見學する。その規模の大なること世界一、百萬圓以上のブドー酒樽數十林立する。總てが機械化されており立派なものだ。工場に入るとブドー酒なんかちつとも飲みたくない零意氣に壓せられるのだらう。歸途ドライブウェイを快走して鶏を轢き殺したのは可愛相だつた、漸次休息して夜八時より競技開始、こんな田舎チームはなつてゐない、女軍が男子に勝つてゐた。水球 12 對 1 其の他推して知るべしだ。長い旅行もいよいよ終りを告げた。思えば十數戦、選手諸君も疲れたことと思ふ。これで重荷が降りたわけ、歐洲轉戦で得た新知識が今後の水球界に多大の貢献をすること必然だ。

9 月 9 日

午前 9 時パーピニオンを後に再びマルセイユに歸る、勝手知つたる街なので思ひ思ひに散策する、歐洲最後の土を踏みしめて。

9 月 10 日

靖國丸入港、多くの日本人を見て安心した。これから日本語が通じると誰れかがはしやいでゐたのも懐しい。出發の仕度で忙しい。

9 月 11 日

いよいよ歐洲を後に一路懐しい故國へ、歸心矢の如しだ、船の中で旅の疲れを癒したいものだ。



戦の跡を顧みて

水球コーチ 松 本 隆 重



先づ残念に思ふことは我々が十分に實力を發揮し得なかつたことである。それは多くの試合でこれこそ力一杯戦ひ得たと満足に思へたのは僅か二、三試合にすぎず、それも前の試合で思ふ存分力を出し得たと思ふとすぐ次の試合にはまるで實力の半分も出てゐない試合をしてゐる。この事は國際試合に恵まれない我々が戸迷ひしたにちがひない所であるが、それにしても餘りにその調子の波の高低の大きかつた事は他にその原因を探し得る。それはチーム指導に對する認識不足に基因するのではないかと思ふ。

◇チームワークの問題に就いて◇

私は今回の代表チームにそれを徹底的に要求することは無理だと思ふ。今回のチームのメンバーが同一チームとして纏つたのは昨年度（昭和十年度）全日本選手権大會に關東學生聯盟として出場したのが最初でその二チームが選手候補となつて引繼いで最終豫選會迄練習したのであつて、その間僅か一年足らずの間にチームワークを作れと云つた所で充分に出来ないのが當然の話で優勝チームのハンガリーがロサンゼルスで優勝して歸國するや直ちに伯林大會に備へて選手候補を組織したのに比すれば丁度俄か仕立の芝居のやうに形だけ揃へたと云ふ感が深く、チームワークに對する眞摯の態度に就いて大いに學ぶべき所があると思ふ。

チームワークは一つの指導精神によつて形成せられる。團體試合に於てそれが缺けて居れば鳥合の集にすぎない。團體競技の強味は單に強い個々の集りで發揮出来るものでないと云ふ事は言を俟たない所である。個々は一つとなつて有機的な働きをなし更に進んで自己を知り敵を知つてこれに處する適宜の策を持ち技術を養つてこそ強固なる集團的強味を發揮し得るのであつて、そこに個々の意志の如く團體の指導方針が出來、これを代表するものとしてコーチが生れる。

◇コーチは團體の意志◇

であり個々はその手足となつて動くべきもので、

そこに始めて強固なチームワークが生れ、そのチームの實力を十分に發揮し得る事が出来るのである。不幸にして我チームはこの概念に對して心構へが不足してゐたと感ぜられる。寄合世帯で併も短時日に一つのチームを強固に仕上げる事はコーチとして非常に困難で重大なる問題である。個々の力を知らずして強固なチームワークを養成することが出来るのではなく、更に四年間の鎖國状態は敵を知るに由なく進んで敵に處する技術方策を打樹てると云ふ事は非常な冒険でもある。殊に私は土井兄の餘儀ない事情のため出發間際にコーチとなつたやうな譯でコーチの重責に耐え得るかどうかと當惑せざるを得なかつた。

◇大會迄の一ヶ月◇

併し幸にして伯林に到着して大會迄に約一ヶ月の練習期間があるし或程度は強固なるチームを成し得る事と信じてゐた、その結果が前述の如く私の豫期とは相當の隔てある悪い結果に終つてしまつた。四年目に實際に敵に相見え、それも水球の本場の歐洲であり、色々學ぶべき所もあり對策を講じようと努力したが私に信頼が足りない故か思ふやうに行かなかつた。これは全く私の淺學博識で萬々不肖の致す所と自責に耐えない次第であるが、コーチは單に命令するものではないのであるから特に過渡期にある水球界として一つとなつて向上を計らなければ不可なと思ふ。

◇遠征を通じ◇

學び得た所を次に記してみる。勿論戦後短時日の事であつて考慮を要する所も多々あるが痛切に感じた儘を述べる。

歐洲の諸強チームと比較して我々の最も痛切に感じた事はレベルの相異である、彼等の當然とする普通のプレイに對しても我々は屢々、度膽を抜かれて不覺をとつた。一例を擧ぐれば反則後の素早いフリースロー等では幾度も苦い經驗を重ねたもので、彼等には常識であり普通のプレイにすぎないものが我

々には全く不意を打たれた形となり、手をほどこす暇もなく戦ふと云ふより見てゐると云ふ結果になり失はないですむゲームの多くを失ふ大きな原因となつた。これは彼等が戦ふ機会を多く持つ結果、當然多くの経験を、それによつて相互にレベルを上げ得たのであつて我國水球はその點大きなハンデキャップを背負ふべく餘儀なくされてゐる。

◆常識の徹底◆

斯くして築いた彼等のプレイは常識を徹底したものと云へる。彼等の戦法は単純で我々の考へてゐたことゝ大して差はなく、寧ろ我々の方が複雑な戦法を考へてゐたやうだ。所が彼等は豊富な経験を生かして単純な戦法を確實に進めるべく努力してゐた。単純な戦法ではあるがそのプレイの正確、確實さは我々が理想としてゐた程度のものであつて驚かされる以上に魅せられたと云ふ感であつた。

我々はロサンゼルスの大會で得た彼等のプレイを採り入れ、更に一步を進める事を考へてゐたがそれは結局上滑りの結果となり、唯一回の経験では彼等の戦法を充分に消化し切れず、彼等の堅實さの前に兜を脱がざるを得なかつた。更に一步を進めんとした意圖も段違ひの確實さの前には用をなす術もなかつたのは當然の結果だと云へよう。

◆キーパーよりの逆襲◆

彼等が同じ戦法で多くの経験を積んだ結果は、攻撃に於ても防禦に於ても殆んど無駄のない迄の正確にして確實なプレイを成し遂げた。そして彼等の攻撃は當然の結果、キーパーよりの逆襲に始まるのが常だつた。我々も逆襲によるチャンスを作る事をロサンゼルスで學び、それを基礎として來た。即ちスピードを利用してドリブルで一舉に敵ゴールを陥す戦法で最後の一步迄その攻撃は成功したが、これを得點にする事に徹底してゐなかつた。相手の防禦の範圍を豫想する事なく決定的シュートが出来ない結果となつた。それに比し、彼等は攻撃はバツクより始めても得點決定はフォワードに任して完全な分業を行ひ、バツクのパスは適切正確であり、フォワードのシュートは又決定的なものであり、殊にフローティングフォワードはシュートする事のみを目的とするが如く、防禦の際も味方へ歸らない場合が多かつた。

メンバー全員がオールランドである事は理想であるが、實際は適材を適所に配する事が有效だと思はれた。ハンガリー、ドイツ等の諸強チームがオールランドを目指してゐる事は窺ひ得る。

併し両者が相見えた試合は堅實第一の分業戦でポ

ールの大半は最も決定力のあるフローティングフォワードに送られ他の者のシュートはあつても問題にならないやうな有様であつた。フローティングフォワード以外は敵に隙を與へず、隙あらば飛び出さんとする堅實な攻防戦に終始して、危氣のない試合を進めんものと努力してゐた。何故フローティングフォワードが防禦に参加せず敵ゴールを離れなかつたかと云ふ事には大きな理由があつた。それは我々チームの失敗を顧みると解るのであつて、彼等の経験はフローティングフォワードが防禦に参加する必要のない事をよく知つてゐた。

◆得點決定の力◆

さて我々チームが逆襲戦法に得意のスピードを利用して乍らもろくも敗れざるを得なかつた原因を尋ねて見よう。最後の一步迄敵を追ひつめ乍ら我々には最後に得點を重ねる力を持たなかつた。更にその決定力を持たないに係らず失敗後の處置を考へず攻撃に偏した爲、返つて失敗した時は逆に敵のチャンスを作つてやる結果となり、攻撃をする度に危期に瀕せざるを得なかつた。それはバツクがドリブルで逆襲に出た場合スピードを利用して得る我々は敵マークを脱して完全にノーマークになり敵防禦に對して味方の攻撃力を一人増加出來決定的に得點し得るものと思つた。併しこれは決定し得る力がなかつたのと共にシュートする位置に對する遠算があつた。それはシュートの成功し得る位置は相手方の防禦によつて決定すべきものを我々は考慮してゐなかつた。そのため攻撃に際しては全員揃つて一舉にゴール目懸けて殺倒した結果ゴール前は混亂して不正確なパスと決定力の少いシュートは一層の不確實となり徒らに好機を失ひ又混雑を避ける動きが敵防禦の範圍外に出た事は切角のノーマークのチャンスをマークする必要のないものとして敵防禦を易々たらしめ、結局無駄が一人出來て攻撃が失敗して敵ボールとなつた瞬間逆に敵にノーマークを作つてやつた事になつた。彼等の経験は全員が攻撃又は防禦することの無駄を知つてゐた。そのためフローティングフォワードが味方のバツクを信頼し敵の陣地に唯一人残つてゐる場合が屢々あつた。このため我々の攻撃は攻撃力の不足と相俟つて逆襲される場合は實に呆氣なく得點を許してしまつた。この事は矯正すべく努力したが最後迄災ひして失策を繰り返したのが残念であつた。戦法は理論のみで形成せられるものではないことは言を俟たない。自己を知り相手を知つて打樹てられるべきものである、更にテクニクを養成してより以上の戦法を築き上げる事が出来るもので

ある。

◇彼我の特徴を◇

更に比較するに第一に體格の問題である。水球が肉弾相打つ競技である以上體格の影響する事は疑ひを入れたい所である。外人選手に比して同等の體格の者を揃へる事は不可能な事ではないが、それ等の者が水球が出来るか否と云ふ事は、現在の日本人の體格から云つて先づ無理とみて差支へないであらう。然し彼我の體格を比較して坂上、高橋(善)等の身體を以てすれば、決して對抗出来ない事はないと思へた。實際身長から云へば日本人としても決して高くない者で優秀な選手は相當ゐた、他の技術と相俟つて日本人は體格の點から絶對的には對抗出来ない事はないと云ふ自信は出來た。ハンガリーチームの某選手が體格に就いて“丈よりもずんぐりした體重のある選手”と言つた言葉は味ふべき價值がある。

これは體格の問題ではないがドイツの或役員より日本選手の近視眼の多いのを指摘されたが一考を要すべきである。外國選手には近眼の者は一人も見受けなかつた。水球ゲームに於て遠近のわからない事は一大缺點で我々チームも今回の遠征では災ひされた事は確かで殊に夜間ゲームに於ては大きな障碍となつたことは事實である。

◇第二にスピードの問題◇

である。ロサンゼルスの大會に於てはセンターボールも餘りとれなかつたのであるが、今回センターボールは殆んどとることが出來たのみならず、スピードが唯一の長所と云つてよかつた。スピードに於ては何れの國にも優れてゐると云ふ自信を得た。水球に於けるスピードは最も基本的な強味であり、體格の不利ををぎない、特に攻撃に際するスピードは我々にとつては絶對に必要な事であつて増々スピードを養つて最大の武器となすべきである。先にスピードに於ては絶對的の強みを持つてゐると云つたがそれは單にスピードのみに關する事であつてその利用に至つてはドリブルに利用してゐるにすぎない、ドリブルに於ては敵を離し得るスピードを持つてゐるがヘッドスピードと利用した鋭ひ動きはゲームに對する判斷のおそい事と相俟つて未だその感が深い。相手とした強チームには一見スピードなきが如く見え乍ら球を持つた際、又ゴール前に於ける動きは實に鋭ひスピードを持つてゐた。我々は水球に於ける獨特の強引なスピードを研究する餘地を残してゐる。それはバタ足を大きく強くし體を浮かし周圍の狀勢を見、攻防の判斷を易からしめドリブルに際

しては敵を寄せつけず更にヘッドスピードを研究して鋭ひ動きが出来る如くする必要がある。

◇第三 テクニツクに就いて◇

見るに我がチームの最大缺點はボールワークであつた。彼我を比較すれば格段の相違があり、我々からみると彼等のボールワークは殆ど理想に近いものであつた。参加チーム中、最も弱いと思はれたイスラランド、マルタ等も單にボールワークの點から云へば確かに我々チームより優れてゐた。彼等のパスは適切正確の一語に盡きる。我々の悪いパスは折角の好機を失ふばかりでなく、逆に敵の好餌となつた事も少くなかつた。先づ、パスをマスターしなければ意の如き攻撃は出来るものでない。更にシュートは彼等が最も重要視する技術であつてボールを持つてば如何なるコンデションにある場合にもシュートし得る事を目標としてゐる。我々が色々世話になつたドイツの選手權保持チームワイセンデー俱樂部では正式の練習に於てはシュートの練習ばかり二時間も行ふと語つてゐたが如何に彼等が重大視してゐるかどうかはされる。時にフロティングフオーワードはシュートのみを目的とするだけであつて、そのシュートは全く背後に眼がある如く感ぜられ自分の位置を知つて見ないでもゴールを覗へる感を持つてゐた。フロートして居ればがっちりマークされるのは當然でゴールを見てシュートするなど云ふ事は滅多にあるものではなく豊富な經驗による感でシュートする外はないのである。

◇フロティングフオーワード◇

として特に目立つてゐた選手はハンガリーのネメスとドイツのシュナイダーの二人がある。ネメスの技術に至つては空中でボールを受けその儘バツクシュートをなし、そのバツクシュートもフェイントループシュートを交へてゐたがキーパーのポジション及びモーション迄わかつてゐるらしく思はれた。シュナイダーは又ネメスと異なる特長を持つてゐた。ネメスが體を横にして泳ぎパスを受けるに反し、常にゴール前に立つてパスを受け體をゆすつてマークをはね飛ばしシュートするのであつて従つてボールを空中で受けとる事は少くともボールに手が掛つてゐる限り體は沈まされてもシュートをなし、そのシュートが又キーパーの虚を衝くものであつて強引なプレーであつた。ネメスとシュナイダーとを比較すれば動いてチャンスを作る所にネヒスに一日の長があると感じられる。

◇日本チームのシュート◇

の拙劣は全く練習不足に歸する事が出来る、手先

の器用な日本人としてボールワークに於ても練習次第で必ずマスター出来るものと確信するものであつて特にスピードを利用しなければならぬ我々にとつてはドリブルシュートは先ず完全にマスターすべきである。

次に大きな缺點はゴールキーパーである、我國のキーパーに對する重要さの考へは先進諸國と正反對であつて彼等はチームを編成するに當つて先づキーパーを決めると云つてゐる。夫程重要視するだけにキーパーはチームの中で身體も最も大きな部に屬し精神的にも技術的にも攻防の中心となる優秀な選手を擁してゐた、それに比し我國のキーパーは技術的にもノーマークのシュートに對しては殆んど得點を許し、又逆襲に際するボールの處置は餘裕ある時にも係らず適切正確を缺き攻撃のチャンスを潰す事多く精神的に敵を押し進んでチームの中心となつてリードする事は無かつた。又日本人のシュートの弱い一半の責任はキーパーにもあるのであつてキーパーの技術と相俟つてシュートは強くなるものである。要するにキーパーに對する認識を改め精神的にも肉體的にも攻防の中心となるべきキーパーを養成する事が早急の問題である。

◇次にマークに就いて◇

我々は攻撃に際するバツクの参加に就いては或程度まで成功したが、その逆になつた際のフォワードの處置は緩漫であつて、敵バツクの自由なパスを許し、時には抜かれて追撃出來ず總崩れをなすことも少くなかつた。敵に正確なパスを許すことは非常な不利であるばかりでなく危険な事で、殊に體格に劣る我々として一考を要する所である。フォワードはその攻防の轉換に對する判断を速に下し、自由なパスを防ぐ事が必要である。ハンガリーチームのフォワードに就いて見ると、彼等はシュートが失敗したと思はれる直前に、既に逆襲に備へて先づ後退してそれから適當にマークすると云ふ極端な防禦を行つてゐた。

又バツクのマークに就いては敵フローティングフォワードに對しては原則として絶対に離れては不可ない。

又マークの方法として四米以内に於てはゴールに面した敵の利手、或は敵の寸前に出で敵にボールを持たず前にカットすべきである。ボールを持たずバツクルされてもシュート出来るのが常識であるから寧ろ積極的にボールをとつてこそ完全なマークであつて、それを越して来るボールはキーパーの責任とすべきである。四米以外のマークはインサイドマー

クであつて突込も防がなければならないからである。これ等のことは先進國の間では絶對的な原則として如何なる場合もこの方法を續けてゐた。要するにマークは攻防轉換に際する判断を過まらない事であり、次には自由なパスを許さず最後には進んでボールをとつてこそマークと云ふべきである。

◇最後にレフェリー◇

に就いて見よう。レフェリーは直接に競技に参加するのではないがレフェリーの判断はゲームを支配する事は云ふまでもない。オリンピックに於けるレフェリーの判断の限界は水球の標準を示すものであつて之れに就いてみるのも無駄ではない。否レフェリーの判断はゲームの死活を制する場合も多々あるからである。レフェリーに見えない所謂水中テクニクは非常に發達してゐるが、レフェリーも之に伴つてその反則を摘出すべく努力してゐた。特にゴール前に於ては得點に關する事なので嚴格であつて殆んど蹴つたり押したりしたと思はれる動作に對しては微細な點も見逃さず反則をとつてゐた。そして四米以内の故意反則に對しては度重なれば思ひ切つて退水を命じ、又完全なチャンスに對する故意反則或は喧嘩等してゐる者は殆んど退水になり兩方共三四名宛といふ珍ゲームもあつた。又水の上に見える反則は嚴格すぎる迄とられ、そのためゲームの進行を妨げ、その逆を行つて手が觸れば故意に沈む者多く見られ一つのテクニクとされてゐた、肩に手をかけるとか、ドリブルに少しでも乗る癖は直ちに目につく事であるから極力避けなければならぬ、又ハンドオフは今の所認められず反則とされてゐた。これはホールディングと見なされる傾向があつたからだ。

オリンピック競技に於ても各國より數人のレフェリーが代表して出てゐたが、その中でも白耳義のデラヘイ佛のデルボー、ハンガリーのシンコー等の審判振りは實に堂に入つたもので、あれだけの反則を實に巧に處理し明快適切な判断は大いに學ぶべきものである。

◇將來の問題◇

以上で遠征に於ける感想を大略終へたが翻つて我國水球界の進むべき道を遠征の經驗を通じて考へて見よう。

今回の遠征で日本水球の前途は決して悲觀したものではなくやれば必ず勝ると云ふ自信を得た。然し現在の水球界より觀れば前途は依然として荆棘の道に變りはない、第十二回オリンピックを東京に迎へるに當つて我々が國民の前に立派に戦ふには從來

の如き進歩の速度を以てしては到底この四年間に優勝を争ふ事は困難である。將に緊禪一番の秘である。如何にして向上を計るべきであらうか。

それには先づ**日本水球界の現状**を知る必要がある。日本水球界の進歩が遅れ、又將來も不便を感じなければならぬ事はその環境である。我水球界は近國に強チームを持たず國際試合は從來に於てロサンゼルスと今回のベルリンの二度に過ぎないのであつて、外部からの刺戟は殆んど恵まれない状態である。この事は我水球界にとつて最大の痛手であつて單に刺戟を得られないのみならず競泳と違つて水球には彼等のレベルの相違は戰つて見る以外に尺度はなく更に彼等に對する策も机上の空論となる恐れが多いのである。この環境に恵まれない事はアメリカに就いても云へる。彼等も井の中の蛙で國際試合に恵まれない國である。彼等の體格云はふまでもなく技術に於ても歐洲選手に劣るものではない。特にフローテックフオーワードのデウーベンスベックの如き歐洲チームの中に伍しても一流の闘士を擁し乍らチームとしては慘敗の憂目を見る結果に終つた。歐洲に於ける群雄の並立は彼等をして絶へず研究心を重ねしめ愈々その向上發展を助け今更の如く歐洲諸國の水球熱に驚いたのであつてハンガリー對ドイツの優勝戰の興奮を今でもはつきりと胸に浮べる事が出来る。私はオリンピックに於て彼等のレベルに達し制覇を成し遂げるには少くともオリンピックの前年に彼等と戰つて經驗を得るか將又歐洲の有能なるコーチを招聘し指導を仰ぐ必要があると思ふ。環境に恵まれない事は我々にとつて最大の痛手ではあるがこれは如何とも仕方がないことである。このハンディキャップを少しでも補ふのは國內で多くのゲームを持つ以外にない。

翻つて**我水球界の競技者層を見る**とき残念ながら貧弱の一語を盡きる。チームを組織してゐるものは數へる程しかないのであつてインターカレッジのリーグ戰參加校、東京と大阪とを中心にした少數の中學校、それに二三の俱樂部を數へ得るに過ぎない。それも競泳の餘技にやつてゐると云ふ感が強く彼等が俱樂部に於て專進して漸く代表選手に選ばれることに比すれば雲泥の差があると云へよう。

歐洲に於て驚き美しかつた事は水球が如何に普及し發達しその競技者層の厚く廣いかと云ふ事であつた。今回の遠征で比較的多く轉戰した國はドイツとフランスであつたがドイツの如きは水ある所必ずゴールポストありと云つた感じで我々が戰を交へた所

も殆んど日本で云ふプールの感じを通り越した沼のやうな場所を仕切つたと云つた所で淨水で泳ぐなどといふ事は夢に近い有様で日本では入る事も躊躇するような所ばかりであつた。そんな場所にさへも立派な俱樂部が組織され（特にマグデブルグのヘラスクラブは世界的に有名でラーデマヘルを生んだ所）競泳に水球に彼等は親しんでゐるのであつて、ドイツチームはハンガリーがロサンゼルスオリンピック直後に選手候補を組織したに對し僅か一年前にチームを組織したにすぎないのであつて、その良否如何は別として斯る競技者層あればこそハンガリーと優勝を争ふ優秀な選手を集め得て強固なチームを組織し得たのだと肯づかれた。更にフランスに於てはプール以外の川の中にも水球の出来る程度のゴールも出来てゐてどんな片田舎に行つても普及徹底してゐるのには驚かされた。歐米に於てチームを構成する者に學生は皆無に近く俱樂部チームより選抜されてゐるのは我國と大いに異つた處である。これは**經驗體力を特に尊ぶ水球**にとつて競泳と又異なる處で、俱樂部の發達が可能ならば此の上ない事であるが現在の我國に於ては社會組織の上から見て實に困難である。然し野球其の他のチームが組織されてゐるのであるから近き將來には必ず可能であらう。俱樂部チームの現出を望むより實際的に先づ考ふべきは學生チームの強化である。

この競技者層と不利な環境にある我水球界に對し聯盟は如何にして強チームを組織すべきであらうかこの淺薄な競技者層を以てドイツの如き統制のみを以て満足することは強固なチームを組織するには何年後かわかつたものではない。勿論廣い競技者層を持つ事が優秀な選手を生む最大な原因に外ならないのであるが今の場合聯盟として採るべき道は進んで水球界のリーダーとなりオリンピック第一主義を採るべきでそれが又水球普及の最も効果ある方法であらう。現在の競技者層よりピックアップして選手候補を作りコーチングスタッフを強固にし、一定の方針（絶えず一つのナショナルチームを作り前回、並びに今回のオリンピック選手を中心として直接指導に當らしめる等）の下にチーム強化を計りこれを通じて普及化すべきであらう。此の實行に當つては從來の水球委員會の組織を一層實行的な組織に改める必要がある。

又競技者の謙讓にして飽迄研究的なる精進は今後の日本水球界を世界の標準に引き上げ得る唯一の鍵である。

河 童 の 話

十 字 路 生

古來杳として其の正體を現さぬ動物の中で龍と我が河童は最も親しまれる愛嬌ものである。

前者は専ら大陸に住み、特に東洋の尊敬の中に育てられ仲々に品格を備へ、力を持つてゐる。即ち獅子よりも強いと云われる猛虎と闘ひ、寶珠を握つて天にも昇る靈術を心得てゐる。我國でも古來人々の尊信を一身に集めてゐるから、繪にも歌にも、通貨に迄も印られて天下至るところに其の威を發輝してゐるが、後者は之に比べるとグツトくだけ、廣く巷間の泥溝の中にまで現はれ、好んで角力など取つたりするから、いよいよ國粹的だ。常に頭の頂にある皿の中に水をたくえてゐるが之が有る間は正に千人力を有するけれ共、一度び水が無くなると三歳の兒にも容易に捻られると云ふから愛嬌だ。

龍が昇天に際して雲を呼び起し、雷光の内に隱見するのに對し、之は泥溝で生捕りされたり、人間のお尻に手を出したり、遂には鼻もちならぬ尻を垂れたりするに及んではお話にならない。水に住むから泳ぎにかけては天下無双で、從横自在、如何なる急流怒濤も物の數ではないと云はれるくせに、どうかすると河童の河流れと云つて、だらしなく溺れたりするから、ウンざりする。

全くウカツな話だが動物園の猿でも時に木から落ち、岩から轉び落ちるさうだから、マア之と同列である。

さりながら河童は斷じてえたいの知れぬお化の類ではない、昔からレツキとした籍を持つてゐる。試に之をのぞいてみると、時と所によつては、其の形態を異にし、其の名も違ふ様で有る。とりわけ職分に至つては問ふべき筋合ではなからう。其の形も龜の甲の如きものを背負ふもの、オツトセイの如く四肢の不明瞭なるもの、或は人の子供にそつくりなもの等が有る。

「諸國異聞記」「水虎十二品之圖」或は「今昔物語」等にあらはれるものでは、大體二つの係統になる。其の何れが本家かは明かでない。即ち甲羅を背負ふてるものには全身に毛がなく、龜の様な形に近い。毛の有るものでは人の裸形に似てゐて、甲がないのださうである。而して其の呼び名もまちまちの様で有る。河童 (KAPPA) GAWARA・GAWAFA・GARAPPA・河太郎、水虎、河泊、川郎、川小僧、

川の殿、水神、等等と書かれてゐる。併し何れにせよオカツパ頭で、其の頂に皿が有り人に似た四肢を有する點等は共通の様である、水に住むから泳ぎが達者で、水中の活動は變幼自在で、巧みに魚などを捕へ之を食してゐて時に動物や人の子を川中に引き込むなどの戯をやる事等は一般の様である。

そして其の名も前記の様な方言などはいざ知らず今では小女達のオカツパ頭に生き返り、又芥川龍之介以來は KAPPA の方が通稱になつたのではあるまいか。

河童の斷片的な行動は話の中によく出て來るが、其の生活ぶりや、住家などを見届けた人はない河童も長年月の間には新陳代謝が有つて、祖父が死ねば孫が育つのであらう、してみると何處かで次のカツパが生まれ、子供カツパは泳ぎの修業等をさせられる事であらうが、之等の事に就いては、どうにもまとまらないのが本當であらうか、さる人は昭和聖代の今日の事では有るが、東京朝日新聞社裏の泥川の中に河童がゐたと云つたし又別な方の話では丸ビル邊りにも其の巢があるんだとも云つたがあまり宛にはならない。

サテ河童の話はいろいろに語り傳へられてゐるが中で一般的なのは寛永年間、豊後の肥田で生捕られた話、江戸は深川の仙臺河岸で發見された話、貢物をする河童の話などであらう。貢物をする話と云ふのは、或る人が河原に馬を繋いでおいたら、カツパが之を川中に引き込まうとしたが、馬があばれ出したのでカツパが之をもてあます中、大事な頭の水をカラにした爲め、力を失ひ、かへつて馬に引きずられ馬屋の中まで連れ込まれてしまつた、人々が集まつて之を打ち殺さうとしたが、其の家の主が憐れに思つて川にかへしてやつた、すると其の夜、主の夢枕に立つたカツパが、御恩がへしのため毎朝井戸端に鮮魚の貢物をするが、間違つても其の附近に双物を置いて呉れるな双物ほどこわいものはないと云ふ知らせ、朝になつて主が行つてみると果して魚が置いてあつた。この事はしばらく續いたが、其の中其の家で新しい下女が來て井戸端に双物を置き忘れてからはビタリと此の事は絶えた。併し其れ以來人々が川を渡る時や泳ぎの時など徳の高い此の主の子孫だと云へば川の災難にはかゝらないと云ふのであ

る。

河童は諧謔と功德を持つてゐる。

次にもう一つの話は廣くは知られてゐないかも知れぬが、今尙ほ、南國の子供達の胸の中にハツキリと生きてるカツパの話をしやう。龍もさうで有るが河童もやはり抹香臭い動物と見え、此處では春の彼岸に川へ下り秋の彼岸に山へ登ることになつてゐる。そして彼等が上り下りの道は一定のコースに限られてゐて何時も同じ所を通るのだ、即ち川ならば大ていの場合、淵とか急流、渦巻き、沼土深い所で山は大てい峯から峯、尾立から峡谷見たいな悪所である。多數が群をなして、奇聲を發しつゝ夕暗から曉かけて通る、其の聲は「ピーヒョーピーヒョー」となき、遠方にもきこえ我々も度々其の聲をきいて縮み上つたものである。近い時には、木の葉をゆすぶる音、落葉を踏む音などザワザワときかれる。さうだ。こんな時大人達は「ソレソレ河童が通るぞ、一人で川へ行つたり泣いたりする子は連れて行かれるぞとおどかす、其の度に遠鳴きを聞いてゐる我々だから胸にヒシヒシと應へたものだ。中學の三年頃に動物の先生にきいたら、其れは鳥の仕業だらうと云はれたが、此の方に興味のないまゝ未だ調べるに至らない。此の爲に少さいものは決してカツパの通り路に當る邊りで一人泳ぎしたり、泳ぎの自慢などするものは無い。或る時土地でも有名なカツパの出所で一人の少年が溺死した。私達がかけつけた時は大勢の人が集つてもぐりながら少年を探してゐた、渦巻きや河底が洞穴のため仲々見つからない、老人

達はカツパを追ひ拂ふために双物を竹に結へて川へ入れたりにしてゐた。その中小學校の先生が、水底から少年を抱いて上つて來た。色々な手當がなされたが不幸その少年は生き返らなかつた。私達は恐ろしく少年に近づいて其の腕下やお尻の邊りをみた、大人達が云ふ様に、カツパが、其の邊の肉を掩き破つて体内のものを取つたのだらうかを見たかつたからだ、併し良く見極めない中に叱られたりすかされたりして其の場を去つた。以來長い間其の場所で泳ぐ子供はゐなかつた、土地の人の間には、生れ月によつては川捕りに會ふ運命の子がゐるが、そんな子供の親は其の子の身代りに着物やシャツを川へ流して其の厄を拂ふとしてゐる。

土地でもカツパの居る場所や、その仕業などは今以て子供に聞かせてゐるが、まともに其の姿など見た話は少い、之は口外するとたゞられると云はれてゐるからかも知れぬが、或る獵師は山奥の谷川でカツパと出會つた、河原で見かけた其の後ろ姿は、裸體になつた、下げ髪の四つ五つの子供に見えたさうだが、忽ち人の氣配に感づいたカツパは、深みの所へ波紋を残して姿を没した、獵師はさすがに、身の毛が寄立つたが、大聲でどなつた。

「ア驚ろいたツ、人間様を驚かす馬鹿ものがツ！」とそして逃げる様にして其の日は家へかへつた。これは山奥や河を一人歩るきする獵師達の間言ひ傳はることで後のたゞりを免れる呪ひであると共に彼等自身に心の餘裕をつける爲なさうである。

キツプス監督をエールに訪ねる記

白山源三郎

昨年の秋、宮木さんと私とはロスアンゼルスに再度訪れて、第十回大會の委員達から再び教を乞ふべく、伯林から大西洋を越えて急いで居た。紐育滞在は僅か三、四日であつた。其間に於て私の一つの楽しい計畫は其所から北數十哩、コンネチカツト州、ニューヘーブンにあるイエール大學にキツプス監督を訪問すると云ふことであつた。日本水泳とは色々な意味に於て親しい間柄にある同氏を、同氏の學校に訪ねることは非常な喜びであるし又日本水泳人の此所を通るものにとつての一つの儀禮でもある。

紐育に着く早々長距離電話で都合を聞いて見た。大變よろこんで一日待つて居てやるとの事、汽車の順路等も親切に教へて呉れた。

其朝は判り難い汽車を捕へて流に近い線路を北に向ふ。段々淋しく田舎らしい地方に這入つて行く。何となく秋色を覚える。大學街らしい停車場に着いたのは晝前であつた。電車でデムナジュームのある所まで行つて、丁度晝時だから、學生の入るらしい食堂に入つて晝食をとつた。壁には各運動部の寫眞がかゝつてゐる。キツプスの若い頃の寫眞、水泳チ

ームの寫眞等がフットボール部のものより巾を利かして居る。米國の大學としては少寸變つて居り、キツプス監督が學校に於ても勢力のあることを思はせる。

體育館、四百萬弗の世界一を誇る體育館、寫眞で見た通りの重々しい、金にあかして建てたと思はせる建築である。體育館と云ふ感じでなく、歐洲で見る古風な大學の本館とでも云ひたい様な建物である。

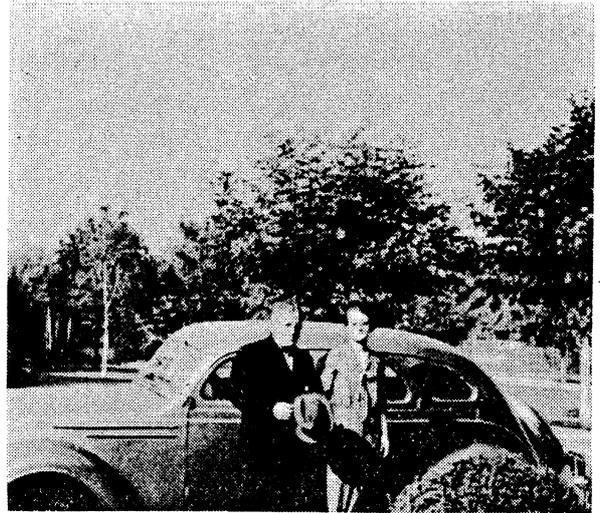
丁度キツプス先生入口へ現れて自動車に乗らうとして居る。御自用車の小故障でガレージへ行く所である。一緒に乗つて行つて修繕を済まし、又歸つて體育館の中に入る。太い柱、厚い壁、暗い内部、城と云つた感じである。丁度休暇中で番人だけしか居ないエレベーターで上へ行つたり下へ行つたりして至れり盡せりの設備に型の如く「ワンダーフル」を繰返した。レスリング、ボクシング、フェンシング、體操、バスケット、等々ボロの練習まで木馬で出来る様に造つてある。醫療室、晝寝の爲の特別室、本大學運動部約二百七十年の歴史を飾る賞牌を陳列した賞牌室、此内には吾々には見覚えのある日本のトロフキーが數個あつた。殊に苦心の跡の見えるのは廊下到的所に掲げられた運動の歴史を語る貴重なる古繪、寫眞で、キツプス氏の苦心の蒐集もあり、寄附もあるらしい。十八世紀かの運動會の畫もある。日本の相撲取の大きな畫像もあつた。

水泳プールは兼々寫眞で見た様に二個ある。一つは館の中心的な場所に、觀覽席を多數取つた二十五米プールで主としてデモンストレーション用を目的と



エール大學體育館前にて

したものであらう三米の飛板飛込臺もついで居る。觀覽席は傾斜が極めて急である。見る上に都合がよい程度を越したものであると思ふ。平面的な廣さを節約



して高さで多くとつた爲、かくの如くなつたのであらう。

五十米練習用プールは館の裏側の張出した所にとつてある。從而一方と上方よりの光線は充分で、巾の狭い飛込臺がレールで動く様になり、米突、碼、双方に使へる様になつて居る。

グルグルと案内して居る間に、色々の事を話した。伯林のオリムピツクの批評、米國の其後の形勢、日本の其後、等々、今は覺えて居ないが、フキツクが成績の悪かつたのはどう云ふ譯かと云ふ問に對して「餘りポイントンにかまひすぎるから」と云つて笑つて居た。

日本の選手については心から褒めて居た。

歩くのに苦しうにビツコを引いて居たから、先生年考ひて來て歩くのも追々と苦しくなつたのか、それ程の年でもないがと思ひつゝ、最後に思切つて尋ねて見たら、足の先に腫物が出來たとの事。

體育館のキツプスの閑疎な事務室で二三の人に紹介されたりして後、氏の自動車で家へ案内された、小さいがサツパリした家で、ホールからすぐ右に入ると書齋でギツシリ本が詰つて居る、主として美術で、日本からか持つて來た東洋美術のものが可なりあつた。誰から贈られた刀劍が大切に飾つてある、

キツプス夫人が出て來て之がキツプス圖書館でボツプはこんなもの許り集めると云つて笑つた様な誇つた様な風であつた。

夫人は氏に比較すれば驚く程お婆さんに見える。初めはお母さんかと思つた。しかしボツプ自身が年より若く見えるのであらう。家の前で御夫婦で寫眞に入つてもらつて別れた。(寫眞参照)

又自動車で、學校のゴルフコース、蹴球競技場(寫眞参照)陸上競技場、屋内競技場(屋内で下に床のない競技場)陸上競技場等=ニューヘーブン郊外の廣

大な静かな大學の設備を案内してもらつて、唯呆然とする許り、一般に同じ米國でも此大學の設備は稍古風な落着きを感じしめる。

大學の教場其他は此場所とも離れ、デムナジュームのある所とも離れ、市の中の一角に立込んで建つて居る。全てどつしりとした石造建築で無暗と丈の高い建物でもない。

本校の自慢の圖書館では稀觀書の珍しいもの多くユツクリ見物したかつた。展覽室には日本の古文書が一番立派なケースの一角を占めて居る。左程のものでない様に思ふが、甚だ鄭重な取扱を受けて居る。

最後に、學生賣店に案内され、新學期の準備に忙しい中で、寫眞機の主任を態々呼んで僕のライカを

鑑定させたりした。日本人は紀念品を贈ることを尊國民とでも思つたのかイエールのマークの入つた美ぶしい紙切ナイフと頁挟みとを紀念品に見立て、呉れた恐縮して頂戴して來た。今此机の上にあつて、其内の細かいギリシア文字がいつまでも私の記憶をニューヘーブンまで追遣る。

驛まで自動車で送つてもらつて別れた米國の東海岸北部の驛、アノ有意美な一日であつたと車窓から眺める秋色、忘れることが出来ない。ボツブも今はA. A. U. の水泳に於ける重要なる地位を退いたと云ふ。あれだけ吾等に感銘を與へたボツブの顔を何時の時に再び見ることが出来るであらうか。朗らかな秋日に廻り會ひ、當時を思ひ出すとこと頻り、敢て筆を攝つた。(一一・一五)

臨時代議員會議事録

昭和十三年十二月廿七日正午 於丸ノ内 中央亭

議 事

1. 前回定例代議員會議事録確認の件承認

2. 報告事項

(イ) 男子競泳チームを主體とする本年度米國遠征に關する昨秋よりの交渉經過並に本年度に至つて米國の國內事情に依り本交渉打切りに至つた事情につき田畑氏より報告

(ロ) FINA の飛込競技規定改正にともない本聯盟飛込競技規定を改正したる件につき原氏より報告

(以下野田氏報告)

(ハ) 第十二回オリンピック東京大會水上競技日程に關する報告

(ニ) プール公認に關し別項の通り報告

(ホ) クラスノ件

昭和十二年度より實施致したる男女競泳飛込各クラス水球代表軍に選拔されたる人員は下記の通りにして十二年十一月中に夫々クラス章を授與したり

競 泳

男子Aクラス 2名 女子Aクラス なし
Bクラス 11名 Bクラス 24名

Cクラス 83名 Cクラス 71名
飛 込
男子Aクラス 1名 女子Aクラス 2名
Bクラス 1名 Bクラス 1名
Cクラス 9名 Cクラス 2名

水 球

日本水球代表軍 20名

(ヘ) トロフィー賞狀に關し次の通り報告

A 小學校兒童優泳賞の件報告

昭和十二年度優秀校賞を左記の通り授與したり

男子尋常科 妙寺尋常高等小學校
高等科 村櫛尋常高等小學校

女子尋常科 九度山尋常高等小學校
高等科 妙寺尋常高等小學校

昭和十二年度學童優泳賞を學童十優表に登録されたるもの三百五十五名に授與したり

B 全國師範學校水上競技大會へ優勝盃寄贈の件

昭和十二年八月廿二日東京高等師範學校水泳部主催にて同校プールに於て開催されたる第一回全國師範學校水上競技大會に日本水上競技聯盟盃を一ヶ寄贈したり

(参加校七校)

- C 實業團選手権水上競技大會優勝旗作製の件
第九回明治神宮體育大會水上競技大會にて舉行したる第一回全國實業團選手権水上競技大會の優勝旗一旗を作製せり
- (ト) 群馬縣體育協會加盟承認の件報告
- (チ) 新評議員追加報告の件
足立祐次、安部輝太郎、川口又男、奥節良の四氏を評議員に任命せり
- (リ) 女子競泳クラス標準時間變更に關し目下考究中なる旨報告

3. 本聯盟主催の競技會開催並にその日程に關する件

- (イ) 昭和十三年日本選手権大會に關する件
(可決)
第十二回オリンピック東京大會第一次豫選會を兼ね昭和十三年日本選手権大會を大阪甲子園プールに於て八月十九、廿、廿一日の三日間に互り開催することとす大會開催大綱別項の通り
- (ロ) 日本女子中等學校水上競技大會開催期日決定の件(可決)
前回の代議員會に於て名古屋にて開催することに決定し居る日本女子中等學校大會を八月廿七、八日の兩日振浦プールに於て開催すること(可決)
- (ハ) 全國實業團水上競技大會を八月廿六、七兩日夜間神宮プールに於て開催すること(可決)
- (ニ) 小學校教員水上競技大會の開催
開催方法並その期日は理事會に一任とす

4. 本年度選手強化事業計畫(可決)

- A 男子競泳
- イ 自三月廿五日至四月七日の二週間甲子園室内プールに於て中等選抜選手の合宿練習を行ふ(N S R)
- ロ 自四月五日至四月廿日の二週間帝大プールに於てCクラス以上の合同練習を行ふ

(N S R)

- ハ 自八月九日至八月十八日の十日間甲子園プールに於て中等選抜選手の合宿練習を行ふ(N S R)

B 女子競泳

- イ 自三月廿五日至四月七日の二週間甲子園室内プールに於てBクラス以上の合宿練習を行ふ(N S R)

C 飛 込

- イ 自四月五日至四月廿日の二週間帝大プールに於て男子合同練習を行ふ(N S R)
- ロ 自三月廿五日至四月三日の十日間東京府立第六高女プールに於て關東地方女子選手の合同練習を行ふ(關東水泳協會)
- ハ 九月下旬一週間オリンピック候補(男女)の合同練習を行ふ(N S R)

D 水 球

- 自五月中旬至八月末迄獨逸より水球コーチ招聘交渉中

5. 普及事業計畫(可決)

- (イ) 高級指導研究會開催の件に關し松澤氏より説明ありその開催方法は理事會に一任とす
- (ロ) 指導者講習會開催並に指導者資格檢定試驗施行に關し次の通り松澤氏より説明ありたるも之は小學校教員水上競技大會と關連して小學校教員の最も参加し易き時期を選定されたとの希望あり理事會に一任とす自七月一日至七月十日の十日間國民體育館プールに於て開催
- (ハ) 遠泳に關する件
その實施方法並に獎勵方法に關しては理事會に一任とし普及委員會に於て協議研究することとす
- (ニ) 水球普及策
水球入門を容易ならしむるため簡易規則を制定し全國的に呼びかけ又學童のため水球遊戲の規則を作成する事とし理事會に一任

聯盟議事録

常務理事會 十二月十二日 於事務所

1. 石本氏渡歐に際し昨夏文部省で撮影した水泳映畫を持つて行かれる様手配すること。
2. 定例理事會を兼ねて石本氏の送別會を十二月廿二日開くこと。

3. 飯田氏よりプール測定委員會の報告あり、別項(六頁)の通りプール公認を承認す決定。

常務理事會 一月十二日 事務所

1. 本年度スケジュールを協議する豫定なりしも米國よりその後の返信未着の爲遠征の有無不明にてスケジュール決定不能の爲次回に譲ること。
2. 春の練習の件は米國より遠征に關する返信到着

の上立案すること。

3. 數日中に返信未着の場合は打電すること。
4. 十三年度水泳年鑑に左記の項目を新しく記載することに決定。
イ、ベストテンの變遷。
ロ、各種十傑表。
ハ、オリンピック記録の變遷。
ニ、極東大會記録の變遷。
ホ、プール設計に関する標準設計圖及其の注意事項。

理事會 一月廿六日 於事務所

1. 昭和十三年度各専門委員として各部委員會案を承認決定す。但し講習會委員主任河野司氏後任決定は會長、名譽主事に一任とすること。
2. 遠泳の實施方針及具體案を決定する爲遠泳委員會を設置することに決定。
3. 水泳講習會の講師をより多く得る爲、既に指導資格保持者中の希望者を集め、指導に関する各部門全般に亘つて指導研究會を開くこととしその立案を講習會委員會に一任す。
4. 國民文化映畫協會にて水泳の指導映畫を作製致し度きにつき聯盟の援助協力を乞ふ旨申出であり、協力することに決定。
5. 米國遠征の件に關し、ケデーに打電せし所折返し中止の返電あり、手紙の到着を俟つて對策を講ずることゝす。而し時局柄多分實現は無理からんとの意見一致す。
6. 春季練習につき協議す。大體春の試験休みを利用して行ふ方針に決定し、具體案は各部該委員會に於て立案することゝす。
7. 群馬縣體育協會の加盟を承認決定す。

常務理事會 二月十五日 於事務所

1. 米國招聘に係る遠征に關し正式拒絶文到着の報告。
2. 松澤氏より體協關係の近狀の報告あり。
3. 岡田氏より水球コーチ招聘に関する其の後の經過報告あり。
4. 春季合宿練習參加者は中等學生四年以下より選抜すること。
5. 四月上旬より二週間位東大プールに於てインターカレデを中心とした合同練習會の計畫を進めることに決定。
6. 昭和十三年日本選手權大會は大阪甲子園で舉行することゝす。

理事會 二月廿三日 於事務所

1. 來る二月廿七日の臨時代議員會に提出すべき本

年度競技會日程、強化事業計畫、普及事業計畫
其の他に付き協議し、其の原案を決定。

2. 小學校教員競技會の原案作製を根來氏に一任す
3. 實業團競技會の擔任者を藤田氏とし原案作製一任のこと。

常務理事會 三月二日 於事務所

1. 米國遠征に關する對外務省關係の其の後の經過即ち遠征は打切り、日本へ米國選手招聘なら水上聯盟は應諾の旨申出で今後其の方面の交渉を望み置きたる旨松澤氏より報告あり。
2. 臨時代議員會後引續き大阪水泳協會、阪神電車會社、水上聯盟の三者集りて選手權大會開催に關する具體的事項を協議したる結果に付き、大橋氏より報告あり。
3. 女子競泳クラス標準時間變更に關する件に關しては其の資料作製を齋藤氏に一任し、三月九日女子部委員會を開き原案作製を一任す。
4. 三月八日に指導普及委員會を開催し普及事業計畫の具體案を協議立案してもらふこと。
5. I. O. C. 委員會で東京大會開催期日繰下げが新聞電報で傳へられたので兼ねて水聯の態度は通告濟みなるも、念の爲更に會期繰下げの場合に對する本聯盟の態度を組織委員會に文書で通告することに決定。
6. 事務局競技部内科學施設研究會に松澤一鶴氏を選出することに決定。
7. 實業團競技に關し三月十八日に關係者を集めて懇談會を開催することに決定す。
8. 指導普及委員會の講習會委員主任及檢定委員主任は松澤一鶴氏と決定す。

オリンピック準備委員會 三月十日 於事務所

1. 組織委員會に於てオリンピックプール決定に致つた經過事情に付き末弘、田畑、松澤の諸氏より報告を受け、種々意見を交換し散會す。

オリンピック準備委員會 三月十日 於事務所

1. I. O. C. カイロ會議にて東京大會が九月二一日開會と決定したるに付き之に對する本聯盟の態度を協議し、組織委員會競技部に左記の點を通告し、同時に新聞にも發表す。
イ、東京大會全體より見る時は最適の時季なるも水上に關する限りに於ては不利なる爲今期の前半に於て水上競技を行ふ様大會プログラムを變更すること、變更不能の場合は決定を留保すること。
ロ、保温設備を有し、充分に練習し得る練習プールをも最少二又は三を用意すること。

聯 盟 日 誌

12年 11月 19日	飛込競技委員会	事務所		
12月 8日	理事会	事務所		
9日	水球委員会	事務所		
15日	石本氏送別會兼理事会	井上		
21日	競泳池公認委員会	事務所		
22日	常務理事会	事務所		
27日	御用終ひ			
13年 1月 10日	事務所開く			
12日	常務理事会 日本最高記録発表	事務所		
17日	飛込競技委員会	事務所		
18日	記録委員会	事務所		
20日	水球競技委員会	事務所		
21日	指導者講習會委員会及び資格検定試験委員会	事務所		
22日	學生聯盟水球委員会	事務所		
24日	學聯實行委員会	同上		
	米國遠征ノ件ニ付キケデー氏宛打電			
25日	女子部委員会	事務所		
	アメリカケデー氏ヨリ返電着ス			
26日	定例理事会	事務所		
27日	オリムピック準備委員会	陶々亭		
27日	群馬縣體協加盟承認ノ決定通知狀ヲ各加盟團體宛發送			
29日	關東學生聯盟總務委員会	東朝		
2月 1日	競泳競技委員会	事務所		
2日	常務理事会	事務所		
3日	水球競技委員会	事務所		
6日	日本學生聯盟代表委員会	事務所		
7日	關東學聯登録管理委員会	事務所		
9日	オリムピック準備委員会	事務所		
12日	日本學聯常任委員会			
	關東學聯實行委員会	事務所		
	ケデイ氏ヨリ日本水上チーム渡米中止狀來ル			
15日	常務理事会	事務所		
17日	臨時代議員會案内狀發送			
18日	飛込競技委員会	事務所		
	中等合宿練習參加案内狀發送			
19日	女子部委員会	事務所		
23日	理事会	事務所		
25日	オリムピック準備委員会	事務所		
26日	學聯(早慶明立日)各主將マネヂャー相談會	事務所		
	體協へ野村憲夫氏(強化委員)松澤一鶴氏(評議員)通知ス			
27日	臨時代議員會	中央亭		
28日	野田主事石田外三氏正午要談			
3月 2日	常務理事会	事務所		
3日	水球競技委員会	事務所		
	競技部長柳隆氏宛オリムピック水上期日ノ件申入ル			
8日	日本學聯文部省獎勵金下附申請書提出受理サル			
9日	女子部委員会	事務所		
	年度分加盟金未納督促			
10日	オリムピック準備委員会	事務所		
12日	競泳池公認委員会	事務所		
	オ準備競泳委員会	事務所		
16日	オリムピック準備委員会	事務所		
17日	飛込競技委員会	事務所		
18日	實業團大會打合せ會	事務所		
19日	關東學生實行委員会	事務所		
22日	女子部委員会	事務所		

編 輯 後 記

これ迄雑誌の編輯に献身的努力を致されておつた諸兄が學年末試験の爲に或は又出征の爲に、ずぶの素人の僕が本號の編輯をやらざるを得なくなり、片手間のその又餘暇にどうやらまとめあげた次第です。

第 55 號がこの世に出たこの誕生の苦みを御憫察の上、編輯上の不手際は勿論その他の點につきましても御寛容あらんことを。(3. 28)

日本水上競技
聯盟機關雜誌

水 泳

第 55 號

昭和十三年四月十五日 納本
昭和十三年四月二十日 發行

(日本水上競技聯盟代表)

編輯兼發行人 野 田 一 雄

印刷者 米 田 眞 二

印刷所 改 洋 社
東京市豊 區巢鴨1丁3番地

定價30錢 年8回發行豫定・8回分 ¥2.40

豫約申込者に限り頒布す(1年前金豫約は送料不要)

廣 告 料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル581
申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替口座東京三九九一九番

昭和十三年競技日程

(太字は本聯盟主催)

五月下旬より	關東學生水球リーグ戦	(神 宮)
六月五日	早慶對抗水上競技大會	(神 宮)
六月十二日	立日明三大學對抗水上競技大會	(神 宮)
七月卅一日	東部中等水上競技大會 兼日本中等水上競技大會豫選會	(神 宮)
七月卅、卅一日	西部中等水上競技大會 兼日本中等競技大會豫選會	(甲子園)
八月二、三日(夜間)	夜間女子中等學校水上競技大會 兼日本女子中等學校水上泳技大會(神 宮) 豫選會	
八月六、七日(晝間)	關東選手權水球飛込競技大會 兼日本選手權水上競技大會豫選會	(神 宮)
八月六、七日(夜間)	日本中等學校水上競技大會	(神 宮)
八月十日(夜間)	關東選手權水上競技大會 兼日本選手權水上競技大會豫選會	(神 宮)
八月上旬	各地方選手權水上競技大會 兼日本選手權水上競技大會豫選會	
八月前半中	各地方女子中等學校水上競技大會 兼日本女子中等學校水上競技大會豫選會	
八月十九、廿、廿一日	日本選手權水上競技大會	(甲子園)
八月廿一日	全國師範學校選手權水上競技大會	(東京高師)
八月廿六、廿日(夜間)	全國實業團選手權水上競技大會	(神 宮)
八月廿七、廿八日	日本女子中等學校水上競技大會 一般女子水上競技大會	(振 浦)
八月	全國小學校教員水上競技大會	(神 宮)
九月上旬	東京小學校水競技大會	(神 宮)
九月九日(夜)十、十一日(晝)	關東學生水上競技大會 兼日本學生選手權水上競技大會豫選會	(神 宮)
九月	東海學生選手權水上競技大會 兼日本學生選手權水上競技大會(振 浦) 海豫選會	
九月	關西學生選手權水上競技大會 兼日本學生選手水上競技大會豫選會	(甲子園)
九月十七、十八日	日本學生選手權水上競技大會	(神 宮)
九月下旬	關東學生水球トーナメント	(神 宮)

昭和十三年 水泳年鑑

定價 五十錢
(送料六錢)

愈々 四月末發行

部數に制限あり 早くお求め下さい

中込方法	}	宛名	東京市麴町區丸ノ内(丸ノ内ビル五八一區)
		送金	振替又ハ小爲替御利用ノ事 振替口座東京三九九一九

日本水上競技聯盟

高級ワキシャツ

純絹ネクタイ

レインコート

流行婦人服地各種



カネボウ 紳士洋品

東京・銀座三丁目

鐘紡サービス・ステーション

電話 京橋 (56) 7181・7182.